

東城ストックヤード施設新築工事

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町270-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号

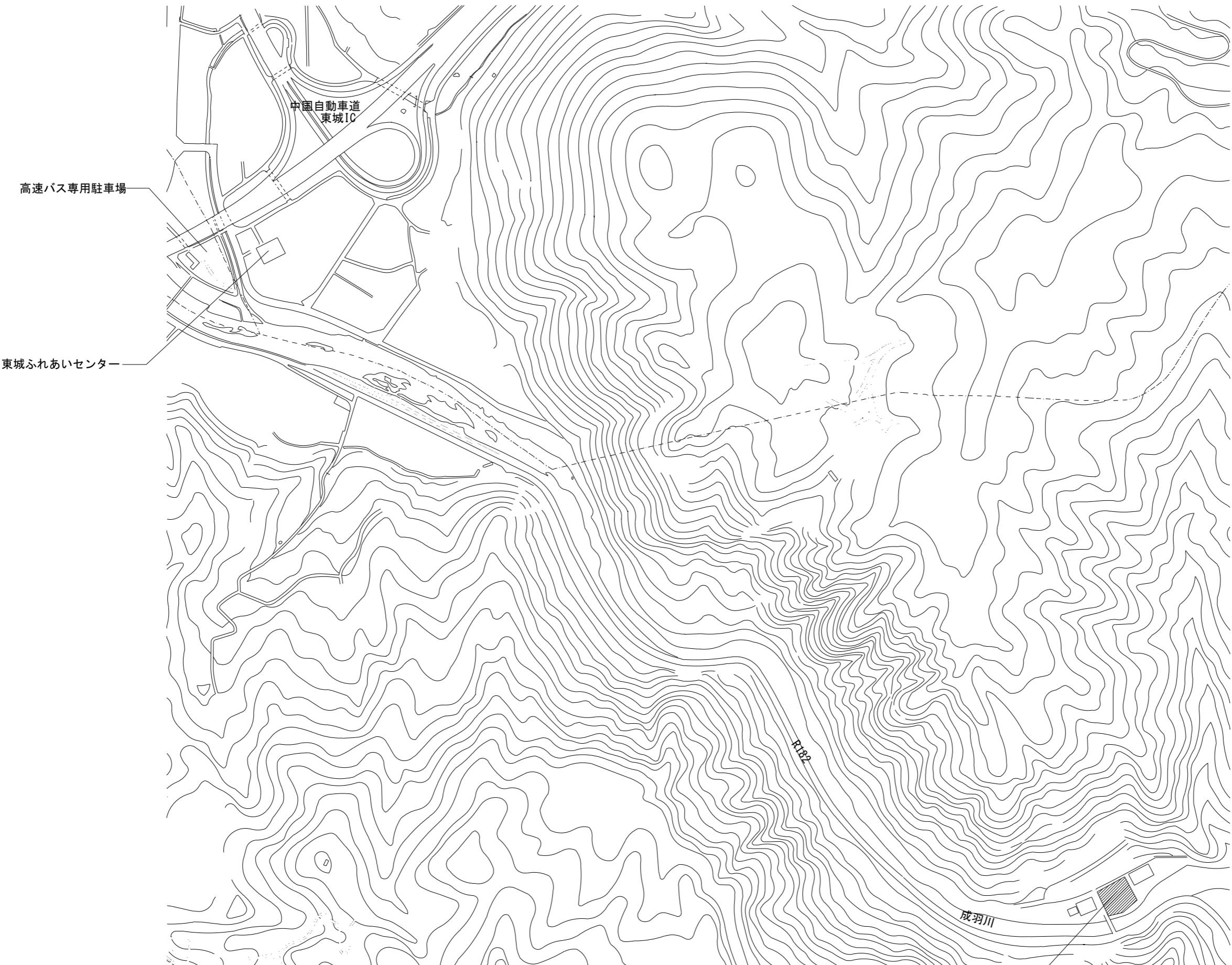
1級建築士登録
第211472号 富永 隆司

富永

東城ストックヤード施設新築工事設計図 仕様書 I. 共通仕様 1. 本共通仕様及び特記仕様に記載されてない事項は、「国土交通省大臣官房官庁常総部監修 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」(以下「標仕」という。)による。 2. 標仕に用いられている用語を次のとおり読み替える。 (1)「契約書」を「建設工事請負基準約款」(以下「約款」という。)に読み替える。 (2)「監督職員」を「監督員」に読み替える。 (3)「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。 3. 次の各号に該当する標仕の項目について、標仕の規定を別表に置き換えて適用する。 (1) 1章 各章共通事項 1節 共通事項 1.1.2 用語の定義(ア)、(セ)、(ナ) (2) " 1.4.2 材料の品質の(1)及び(2) (3) " 1.4.4 材料の検査の(1) (4) " 1.6.1 工事検査の(2)及び(3) 4. 次に掲げる標仕の規定は、適用しない。 1章 1.1.2 用語の定義(2) " 1.6.2 技術検査 別表(建築工事) 項目 置き換えた後の標仕の規定 1章 各章共通事項 1節 共通事項 (1) 1.1.2 用語の定義 (ア)「監督員」とは、約款第10条に基づき受注者に通知された者をいう。 (セ)「書面」とは発行年月日及び氏名が記載された文書又は電子決済処理された電磁的記録をいう。 (ナ)「工事検査」とは、約款に基づく各事項の確認をするために発注者が検査員が行う検査をいい、工事の施工体制、施工状況、出来形、品質及び出来ばえの検査(ただし、②に係る検査を除く。)を含む。 ①工事の完成(約款第32条) ②部分払の請求に係る出来形部分又は部分払指定工事材料等(約款第38条) ③部分引渡しの指定部分に係る工事の完成(約款第39条) ④契約の解除時における出来形部分(約款第48条) ⑤必要があると認めたときの臨時検査(約款第50条) (2) 1.4.2 材料の品質等 (1) 使用する材料は「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(契約時の最新版)」の名簿に記載されている品目については、当該名簿に記載されている材料又は製造所の製品とするほか、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、新品とする。ただし、設計図書に定める場合、この限りでない。 なお、「新品」とは、品質及び性能が製造所から出荷された状態であるものを指し、製造者による使用期限等の定めがある場合を除き、製造後一定期間内であることを条件とするものではない。 (2) 使用する材料が、設計図面に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を、監督員に提出する。 ただし、設計図面に定めるJIS又はJASの材料で、JIS又はJASのマーク表示のあるものを使用する場合又はあらかじめ監督員の承諾を受けた場合(次の(7)から(9)のいずれかに該当する材料を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けたことを除く)は、この限りでない。 (7) 建築基準法その他の認定品で、マーク等の確認ができる材料 (4) 建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿に記載されている材料又は製造所の製品(特記で標仕の規定に基づく品質及び性能以外を規定した場合を除く。) (5) 特記により指定された材料又は製造者の製品 (3) 1.4.4 材料の検査等 (1) 工事現場に搬入した材料は、種別ごとに監督員の検査を受ける。ただし、次の(7)若しくは(4)に該当する場合又はあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 (7) 工事完成検査又は工事写真で、JIS若しくはJASのマークを確認できる場合 (4) 建築基準法その他の認定品と指定された材料で、工事完成検査時又は、工事写真で品質・性能を証明するマーク等を確認できる場合 (4) 1.6.1 工事検査 (2) 約款に基づく部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。 (3) (1)の通知又は(2)の請求に基づく検査並びに約款第48条及び第50条に規定する検査は、発注者から通知された検査日に受ける。		II 特記仕様 1. 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2. 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3. 特記事項に記載の()内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。なお、(参考)は標仕の「各部記載 参考図」を表す。 4. 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また()内は製品名を示す。 章 項目 特記事項 1 ① 工事実績情報サービス(CORINS)への登録 ※請負工事費500万円以上の場合は登録する。 各 2 概定期間 ※無し・有(工期令和年月日) 3 品質計画等 建築基準法に基づき指定する条件 共 4 工事の記録等 地区の区分に応じた風速(Vo(m/sec)) 30 32 事 項 多雪地域の指定 積雪区分 建告示第1455号別表() 5 電気保安技術者 契約書に基づく履行報告に当たり、報告に用いる書式等は「工事進行マニュアル(広島県土木部都市局構造課)」による。 6 発生材の処理等 2.4追加特記 7「発生材の処理等」による。 7 特別な材の工法 8 技能士 標仕に記載されていない特別な材の工法は、材料製造所の指定工法による。 1.5.2 適用工事種別 技能検定の職種 鉄筋工事 鉄筋施工(鉄筋組立て作業) コンクリート工事 型枠施工 鉄骨工事 とび アロケ・ALC・PLC工事 ブロック建築・ALC・PLC工事 防水工事 防水工事(・アスファルト防水工事作業・塗膜防水工事作業・合成ゴム系・防水工事作業・シリコン防水工事作業) 石工事 石材施工(石張り作業) タイル工事 タイル張り 木工事 建築大工 屋根及び土工 建築板金(内外装板金作業) 金属工事 内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業) 左官工事 左官 建具工事 サッシ施工 ガラス施工 自動ドア施工 カーテンウォール工事 カーテンウォール施工(P.C.) サッシ施工 ガラス施工 塗装工事 塗装(建築塗装作業) 内装工事 内装仕上げ施工(・アスファルト系床仕上げ工事作業・ボード仕上げ工事作業)・表装(壁装作業) 植栽工事 造園 9 見本施工 10 物質の濃度測定 11 完成図等 12 施工図等の取扱 13 工事完成写真 14 特別完成写真 15 工事施工状況写真 16 設備工事との取扱 2 ① 監督員事務所等 3 建設発生土の処理 4 1 試験 5 既製コンクリート杭地業 6 普通コンクリートの設計基準強度 7 レジマックスコンクリートの種類 8 セメントの種類 9 混和材料の種別 10 無筋コンクリート 11 型枠材料 12 コンクリート軸体表面の処理 13 コンクリート打放し仕上げ 4 地業工事 4.2 既製コンクリート杭地業 4.3 既製コンクリート杭地業 4.4 鉄骨工事 4.5 鉄筋工事 4.6 砂利地業 4.7 床下防湿層 4.8 鉄筋の種別 4.9 鉄筋の継手及び定着 4.10 鉄筋の最少かぶり厚さ 4.11 鉄筋の種類 4.12 鉄筋の継手及び定着 4.13 鉄筋の最少かぶり厚さ 4.14 帯筋 4.15 最上階柱頭補強 4.16 聖開口部の補強 4.17 梁貫通孔の補強形式 4.18 圧接完了後の取扱試験 4.19 機械式継手 4.20 溶接継手 4.21 普通コンクリートの設計基準強度 4.22 レジマックスコンクリートの種類 4.23 セメントの種類 4.24 混和材料の種別 4.25 無筋コンクリート 4.26 型枠材料 4.27 コンクリート軸体表面の処理 4.28 コンクリート打放し仕上げ 4.29 既製コンクリート杭地業 4.30 既製コンクリート杭地業 4.31 既製コンクリート杭地業 4.32 既製コンクリート杭地業 4.33 既製コンクリート杭地業 4.34 既製コンクリート杭地業 4.35 既製コンクリート杭地業 4.36 既製コンクリート杭地業 4.37 既製コンクリート杭地業 4.38 既製コンクリート杭地業 4.39 既製コンクリート杭地業 4.40 既製コンクリート杭地業 4.41 既製コンクリート杭地業 4.42 既製コンクリート杭地業 4.43 既製コンクリート杭地業 4.44 既製コンクリート杭地業 4.45 既製コンクリート杭地業 4.46 既製コンクリート杭地業 4.47 既製コンクリート杭地業 4.48 既製コンクリート杭地業 4.49 既製コンクリート杭地業 4.50 既製コンクリート杭地業 4.51 既製コンクリート杭地業 4.52 既製コンクリート杭地業 4.53 既製コンクリート杭地業 4.54 既製コンクリート杭地業 4.55 既製コンクリート杭地業 4.56 既製コンクリート杭地業 4.57 既製コンクリート杭地業 4.58 既製コンクリート杭地業 4.59 既製コンクリート杭地業 4.60 既製コンクリート杭地業 4.61 既製コンクリート杭地業 4.62 既製コンクリート杭地業 4.63 既製コンクリート杭地業 4.64 既製コンクリート杭地業 4.65 既製コンクリート杭地業 4.66 既製コンクリート杭地業 4.67 既製コンクリート杭地業 4.68 既製コンクリート杭地業 4.69 既製コンクリート杭地業 4.70 既製コンクリート杭地業 4.71 既製コンクリート杭地業 4.72 既製コンクリート杭地業 4.73 既製コンクリート杭地業 4.74 既製コンクリート杭地業 4.75 既製コンクリート杭地業 4.76 既製コンクリート杭地業 4.77 既製コンクリート杭地業 4.78 既製コンクリート杭地業 4.79 既製コンクリート杭地業 4.80 既製コンクリート杭地業 4.81 既製コンクリート杭地業 4.82 既製コンクリート杭地業 4.83 既製コンクリート杭地業 4.84 既製コンクリート杭地業 4.85 既製コンクリート杭地業 4.86 既製コンクリート杭地業 4.87 既製コンクリート杭地業 4.88 既製コンクリート杭地業 4.89 既製コンクリート杭地業 4.90 既製コンクリート杭地業 4.91 既製コンクリート杭地業 4.92 既製コンクリート杭地業 4.93 既製コンクリート杭地業 4.94 既製コンクリート杭地業 4.95 既製コンクリート杭地業 4.96 既製コンクリート杭地業 4.97 既製コンクリート杭地業 4.98 既製コンクリート杭地業 4.99 既製コンクリート杭地業 4.100 既製コンクリート杭地業 4.101 既製コンクリート杭地業 4.102 既製コンクリート杭地業 4.103 既製コンクリート杭地業 4.104 既製コンクリート杭地業 4.105 既製コンクリート杭地業 4.106 既製コンクリート杭地業 4.107 既製コンクリート杭地業 4.108 既製コンクリート杭地業 4.109 既製コンクリート杭地業 4.110 既製コンクリート杭地業 4.111 既製コンクリート杭地業 4.112 既製コンクリート杭地業 4.113 既製コンクリート杭地業 4.114 既製コンクリート杭地業 4.115 既製コンクリート杭地業 4.116 既製コンクリート杭地業 4.117 既製コンクリート杭地業 4.118 既製コンクリート杭地業 4.119 既製コンクリート杭地業 4.120 既製コンクリート杭地業 4.121 既製コンクリート杭地業 4.122 既製コンクリート杭地業 4.123 既製コンクリート杭地業 4.124 既製コンクリート杭地業 4.125 既製コンクリート杭地業 4.126 既製コンクリート杭地業 4.127 既製コンクリート杭地業 4.128 既製コンクリート杭地業 4.129 既製コンクリート杭地業 4.130 既製コンクリート杭地業 4.131 既製コンクリート杭地業 4.132 既製コンクリート杭地業 4.133 既製コンクリート杭地業 4.134 既製コンクリート杭地業 4.135 既製コンクリート杭地業 4.136 既製コンクリート杭地業 4.137 既製コンクリート杭地業 4.138 既製コンクリート杭地業 4.139 既製コンクリート杭地業 4.140 既製コンクリート杭地業 4.141 既製コンクリート杭地業 4.142 既製コンクリート杭地業 4.143 既製コンクリート杭地業 4.144 既製コンクリート杭地業 4.145 既製コンクリート杭地業 4.146 既製コンクリート杭地業 4.147 既製コンクリート杭地業 4.148 既製コンクリート杭地業 4.149 既製コンクリート杭地業 4.150 既製コンクリート杭地業 4.151 既製コンクリート杭地業 4.152 既製コンクリート杭地業 4.153 既製コンクリート杭地業 4.154 既製コンクリート杭地業 4.155 既製コンクリート杭地業 4.156 既製コンクリート杭地業 4.157 既製コンクリート杭地業 4.158 既製コンクリート杭地業 4.159 既製コンクリート杭地業 4.160 既製コンクリート杭地業 4.161 既製コンクリート杭地業 4.162 既製コンクリート杭地業 4.163 既製コンクリート杭地業 4.164 既製コンクリート杭地業 4.165 既製コンクリート杭地業 4.166 既製コンクリート杭地業 4.167 既製コンクリート杭地業 4.168 既製コンクリート杭地業 4.169 既製コンクリート杭地業 4.170 既製コンクリート杭地業 4.171 既製コンクリート杭地業 4.172 既製コンクリート杭地業 4.173 既製コンクリート杭地業 4.174 既製コンクリート杭地業 4.175 既製コンクリート杭地業 4.176 既製コンクリート杭地業 4.177 既製コンクリート杭地業 4.178 既製コンクリート杭地業 4.179 既製コンクリート杭地業 4.180 既製コンクリート杭地業 4.181 既製コンクリート杭地業 4.182 既製コンクリート杭地業 4.183 既製コンクリート杭地業 4.184 既製コンクリート杭地業 4.185 既製コンクリート杭地業 4.186 既製コンクリート杭地業 4.187 既製コンクリート杭地業 4.188 既製コンクリート杭地業 4.189 既製コンクリート杭地業 4.190 既製コンクリート杭地業 4.191 既製コンクリート杭地業 4.192 既製コンクリート杭地業 4.193 既製コンクリート杭地業 4.194 既製コンクリート杭地業 4.195 既製コンクリート杭地業 4.196 既製コンクリート杭地業 4.197 既製コンクリート杭地業 4.198 既製コンクリート杭地業 4.199 既製コンクリート杭地業 4.200 既製コンクリート杭地業 4.201 既製コンクリート杭地業 4.202 既製コンクリート杭地業 4.203 既製コンクリート杭地業 4.204 既製コンクリート杭地業 4.205 既製コンクリート杭地業 4.206 既製コンクリート杭地業 4.207 既製コンクリート杭地業 4.208 既製コンクリート杭地業 4.209 既製コンクリート杭地業 4.210 既製コンクリート杭地業 4.211 既製コンクリート杭地業 4.212 既製コンクリート杭地業 4.213 既製コンクリート杭地業 4.214 既製コンクリート杭地業 4.215 既製コンクリート杭地業 4.216 既製コンクリート杭地業 4.217 既製コンクリート杭地業 4.218 既製コンクリート杭地業 4.219 既製コンクリート杭地業 4.220 既製コンクリート杭地業 4.221 既製コンクリート杭地業 4.222 既製コンクリート杭地業 4.223 既製コンクリート杭地業 4.224 既製コンクリート杭地業 4.225 既製コンクリート杭地業 4.226 既製コンクリート杭地業 4.227 既製コンクリート杭地業 4.228 既製コンクリート杭地業 4.229 既製コンクリート杭地業 4.230 既製コンクリート杭地業 4.231 既製コンクリート杭地業 4.232 既製コンクリート杭地業 4.233 既製コンクリート杭地業 4.234 既製コンクリート杭地業 4.235 既製コンクリート杭地業 4.236 既製コンクリート杭地業 4.237 既製コンクリート杭地業 4.238 既製コンクリート杭地業 4.239 既製コンクリート杭地業 4.240 既製コンクリート杭地業 4.241 既製コンクリート杭地業 4.242 既製コンクリート杭地業 4.243 既製コンクリート杭地業 4.244 既製コンクリート杭地業 4.245 既製コンクリート杭地業 4.246 既製コンクリート杭地業 4.247 既製コンクリート杭地業 4.248 既製コンクリート杭地業 4.249 既製コンクリート杭地業 4.250 既製コンクリート杭地業 4.251 既製コンクリート杭地業 4.252 既製コンクリート杭地業 4.253 既製コンクリート杭地業 4.254 既製コンクリート杭地業 4.255 既製コンクリート杭地業 4.256 既製コンクリート杭地業 4.257 既製コンクリート杭地業 4.258 既製コンクリート杭地業 4.259 既製コンクリート杭地業 4.260 既製コンクリート杭地業 4.261 既製コンクリート杭地業 4.262 既製コンクリート杭地業 4.263 既製コンクリート杭地業 4.264 既製コンクリート杭地業 4.265 既製コンクリート杭地業 4.266 既製コンクリート杭地業 4.267 既製コンクリート杭地業 4.268 既製コンクリート杭地業 4.269 既製コンクリート杭地業 4.270 既製コンクリート杭地業 4.271 既製コンクリート杭地業 4.272 既製コンクリート杭地業 4.273 既製コンクリート杭地業 4.274 既製コンクリート杭地業 4.275 既製コンクリート杭地業 4.276 既製コンクリート杭地業 4.277 既製コンクリート杭地業 4.278 既製コンクリート杭地業 4.279 既製コンクリート杭地業 4.280 既製コンクリート杭地業 4.281 既製コンクリート杭地業 4.282 既製コンクリート杭地業 4.283 既製コンクリート杭地業 4.284 既製コンクリート杭地業 4.285 既製コンクリート杭地業 4.286 既製コンクリート杭地業 4.287 既製コンクリート杭地業 4.288 既製コンクリート杭地業 4.289 既製コンクリート杭地業 4.290 既製コンクリート杭地業 4.291 既製コンクリート杭地業 4.292 既製コンクリート杭地業 4.293 既製コンクリート杭地業 4.294 既製コンクリート杭地業 4.295 既製コンクリート杭地業 4.296 既製コンクリート杭地業 4.297 既製コンクリート杭地業 4.298 既製コンクリート杭地業 4.299 既製コンクリート杭地業 4.300 既製コンクリート杭地業 4.301 既製コンクリート杭地業 4.302 既製コンクリート杭地業 4.303 既製コンクリート杭地業 4.304 既製コンクリート杭地業 4.305 既製コンクリート杭地業 4.306 既製コンクリート杭地業 4.307 既製コンクリート杭地業 4.308 既製コンクリート杭地業 4.309 既製コンクリート杭地業 4.310 既製コンクリート杭地業 4.311 既製コンクリート杭地業 4.312 既製コンクリート杭地業 4.313 既製コンクリート杭地業 4.314 既製コンクリート杭地業 4.315 既製コンクリート杭地業 4.316 既製コンクリート杭地業 4.317 既製コンクリート杭地業 4.318 既製コンクリート杭地業 4.319 既製コンクリート杭地業 4.320 既製コンクリート杭地業 4.321 既製コンクリート杭地業 4.322 既製コンクリート杭地業 4.323 既製コンクリート杭地業 4.324 既製コンクリート杭地業 4.325 既製コンクリート杭地業 4.326 既製コンクリート杭地業 4.327 既製コンクリート杭地業 4.328 既製コンクリート杭地業 4.329 既製コンクリート杭地業 4.330 既製コンクリート杭地業 4.331 既製コンクリ	

防水工事	2 改質アスファルトシート防水	(9.3.2) (9.3.3) (表9.3.1) ~ (表9.3.3)									
	3 合成高分子系ルーフィングシート防水	種別	厚さ	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所
4 塗膜防水											
⑤ シーリング											
6 防水の保証等											
10 石工事	1 天然石張り	石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1) (表10.2.2)									
		施工箇所	種類	等級	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所
		・床石	※2等	※正方形に近い矩形							
11 タイル工事	2 テラゾ張り	種石の種類 ※大理石 (10.2.1) (表10.2.2)									
		施工箇所	表面仕上げ	・本磨き							
12 木工事	3 床及び階段の石張り	床石張りの石表面処理 行う (10.6.2)									
		施工箇所	屋内のワックス掛け	・行う							
11 ① 磁器質タイル	2 壁タイル張り工法	タイルの種類 ※大理石 (11.2.2) (表11.2.2)									
		施工場所	形状寸法	耐凍害性	うわぐすり	役物	色	施工箇所	施工箇所	施工箇所	施工箇所
		・用 途	(mm)	あり	なし	施釉	無釉	あり	なし	標準	特注
12 木工事	3 コンクリート素地面の処理	床タイル張りの石表面処理 行う (11.2.7) (表11.2.7)									
		施工箇所	表面仕上げ	・工法							
12 木工事	4 表面仕上げ	表面仕上げの種別 (12.1.4) (表12.1.1) (表12.1.2)									
		施工箇所	表面仕上げの種別	・A種							
2 製材	5 直交集成板	表面仕上げの種別 (12.2.1) (表12.2.1)									
		施工箇所	品名	寸法	强度等級	種別	接着性能	樹種	寸法	施工箇所	施工箇所
				(mm)					(mm)		
12 木工事	6 合板等	「合板の日本農林規格」による普通合板 (12.2.1)									
		施工箇所	品名	厚さ	接着の程度	板面の樹種名	接着の程度				

ユ ニ ツ ト 及 び そ の 他 工 事	15 ピクチャーレール 16 天井点検口 17 床下点検口 18 積雪表示板 19 表示 20 くつふきマット 21 ① 排水管 22 ② 排水栓及びふた 23 洗面カウンター 24 敷地境界石標	カーテンレール (20.2.16)				4 路床の試験 5 路盤材料 6 路盤の締固め度試験 7 アスファルト舗装 8 コンクリート舗装 9 カラー舗装 10 透水性アスファルト舗装 11 ブロック系舗装 12 区画線 13 土壤の試験 14 樹木の植栽基盤整備 15 支柱材 16 幹巻き用材料 17 芝張り	支持力比(CBR)試験 行う(※乱した土・乱さない土)・行わない (22.2.5) 路床締固め度の試験 行う・行わない 現場CBR試験 行う・行わない				※引渡しの日から1年間 (23.3.4) (23.3.6) (23.4.7) (23.5.5)				24 追 加 特 記														
		強さによる区分	材 料	仕 上 げ	形 状																								
		※10-90	※アミカ製 ・ステンレス製	※アミカ製	※角形																								
		レール	材 質	アミカ製(アルミ)	形 式	先付け天井埋込型(見切縫兼用)																							
		ランナ	材 質	本体:真鍮製 フック:ステンレス製(可動式)	耐荷重	25kg程度/個																							
		個数	2個/レール 1m																										
		目地形状	適 用 管 所	寸 法 (mm)																									
		・額縁タイプ	下記以外全て	※450×450																									
		・目地タイプ	※図示	・天井仕上げ材がDRの範囲	600×600																								
		本体の材質	目地の材質	適 用 管 所	寸 法 (mm)																								
		※アミカ製 ・ステンレス製	※アミカ製 ・黄銅	下記以外全て	※600×600																								
		※塩化ビニル製(白)、ステンレス(10mm)4本詰め、文字入れ共 取付け場所(・図示 ・監督員の指示による) 寸法 180×160×5																											
		設計 積 雪 量 下記の積雪量を超えるときは 雪下しが必要です 設計積雪量 O. O.m 設 計 者 株式会社〇〇設計事務所 施 工 者 〇〇建設株式会社 竣工年月日 令和〇〇年〇〇月〇〇日																											
		180 mm																											
		室名札 (20.2.11)																											
		材 質	寸 法 (mm)	突 出 型	面 付 型	文 字 形 式	受 金 具																						
		※塩化ビニル製	※260×80×5	ヶ 所	ヶ 所	※文字書き込み	※ステンレス(SUS304)																						
		・アリル樹脂製	・	ヶ 所	ヶ 所	・文字彫込み	・																						
		・県産杉板材	※260×80×12	ヶ 所	ヶ 所	・印刷	・																						
		市販品	材 質	・塩化ビニル製(コイル状 ステンレス製受持)																									
		・ビニル製(ステンレス製受持)																											
		・硬質アミカ製(受持とも)																											
		・ステンレス製(受持とも)																											
		種類寸法(L=mm) 適用内容規格・品質等																											
		・流し台	※1200・1500・1800	トラップ付き	・	・優良住宅部品	・																						
		・コロ台	※600・700	・	バッカート	・※有り	(セミオーダーメイドI型)																						
		・つり戸棚	※1200・900	・600	・	・市販品	・																						
		・水切り棚	※1200・900	・	ステンレス製	※1段式	・市販品																						
		22 屋内掲示板	材質	※アミカ製	表面の材質	※特殊発泡ビニール張り	・																						
		23 洗面カウンター	材種	・セミ樹脂化粧板張り(芯材:集成材)	・人工大理石(品質:※図示)	・	・																						
		24 敷地境界石標	・	・	・	・	・																						
		※コカラートローリング製の市販品程度																											
		21 ① 排水管	排水管用材料	(21.2.1) (表21.2.1)																									
		22 ② 排水栓及びふた	側塊の形状及び寸法	・	・	・	・																						
		23 洗面カウンター	材種	・セミ樹脂化粧板張り(芯材:集成材)	・人工大理石(品質:※図示)	・	・																						
		24																											



工事場所：庄原市東城町久代6671番地2

富永建築設計事務所	1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号	東城ストックヤード施設 新築工事	縮尺	設計	図面番号
広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司 	付近見取り図		R7・3	A-5

外部仕上表

1	基礎腰	コンクリート打放補修 防水形複層塗材E吹付	5	建具	[S造] アルミサッシ（シルバー）見込70 窓廻りコーティング施工 [その他] 電動シャッター
2	外壁	[S造外壁] ALC t=100 防水系複層塗装吹付	6	樋	[堅樋] 硬質塩化ビニル管カラーφ100 接合金物 ステンレス製 @1000以内 [軒樋] 大型塩ビ製角樋 W=200 接合・吊り金物 ステンレス製 @300以内
3	軒裏 軒鼻	ルーフデッキ166ハゼ表し	7		
4	屋根	[屋根] ルーフデッキ166ハゼ 裏張りポリエチレンフォーム t=4.0	8		

内部仕上表

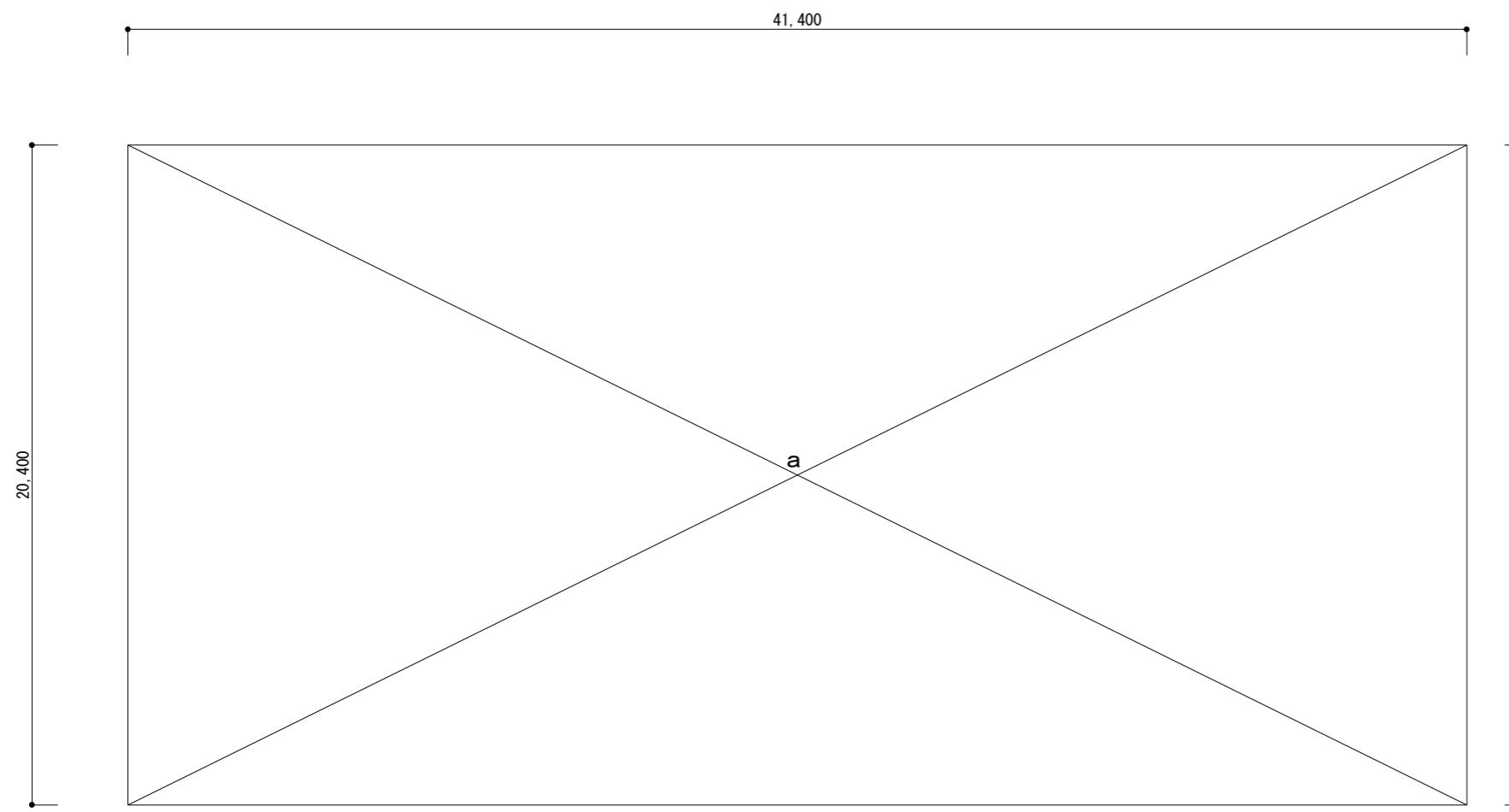
	室名	床	巾木	壁		天井	天井高	備考
				下地	仕上			
1F	作業室	土間コンクリート金コテ仕上	—	LGS (軽量鋼製壁下地) 石膏ボード下地) 9.5	ケイカル版 t=6.0	表し		
	便所	磁器質タイル100×100	磁器質タイル100×100	LGS (軽量鋼製壁下地) 石膏ボード下地) 9.5	ケイカル版 t=6.0	ジプトーン	CH=2400	
	踏込	土間コンクリート金コテ仕上	—	LGS (軽量鋼製壁下地) 石膏ボード下地) 9.5	ケイカル版 t=6.0	ジプトーン		
	階段室	タイルカーペット	OP塗装仕上	LGS (軽量鋼製壁下地) 石膏ボード下地) 9.5	クロス貼り	表し		
	プラットホーム	土間コンクリート金コテ仕上	—	一部LGSW100下地	LGS表し ケイカル版 t=6.0	表し		
	洗車場	土間コンクリート金コテ仕上	—		ALC t=100	表し		
	搬出物置場	土間コンクリート金コテ仕上	—		ALC t=100			
	洗車機置場	土間コンクリート金コテ仕上	—	LGS (軽量鋼製壁下地)	防水ボード) 9.5仕上げ	防水ボード t=9.5		
2F	監視室	タイルカーペット	ソフト巾木 H=100	LGS (軽量鋼製壁下地) 石膏ボード下地) 12.5	クロス貼り	化粧石膏ボード貼 (不燃)	CH=2350	天井点検口アルミ450×450 流し台W1200
	階段	タイルカーペット	OP塗装仕上	LGS (軽量鋼製壁下地) 石膏ボード下地) 12.5	クロス貼り	表し		

ケイカル版 NM-8576

クロス QM-0822

ジプトーン NM-1864

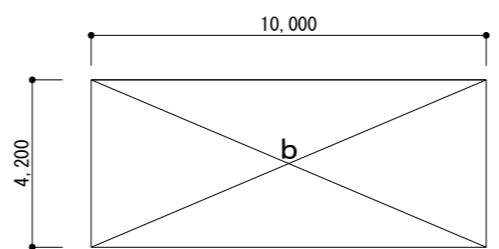
	富永建築設計事務所 1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号 広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司 	東城ストックヤード施設 新築工事 内外仕上表	縮尺 —	設計 R7・3	図面番号 A-6
--	---	--	---------------------------	---------	------------	-------------



1階面積求積図 1/200

$$a = 41.400 \times 20.400 = 844.56$$

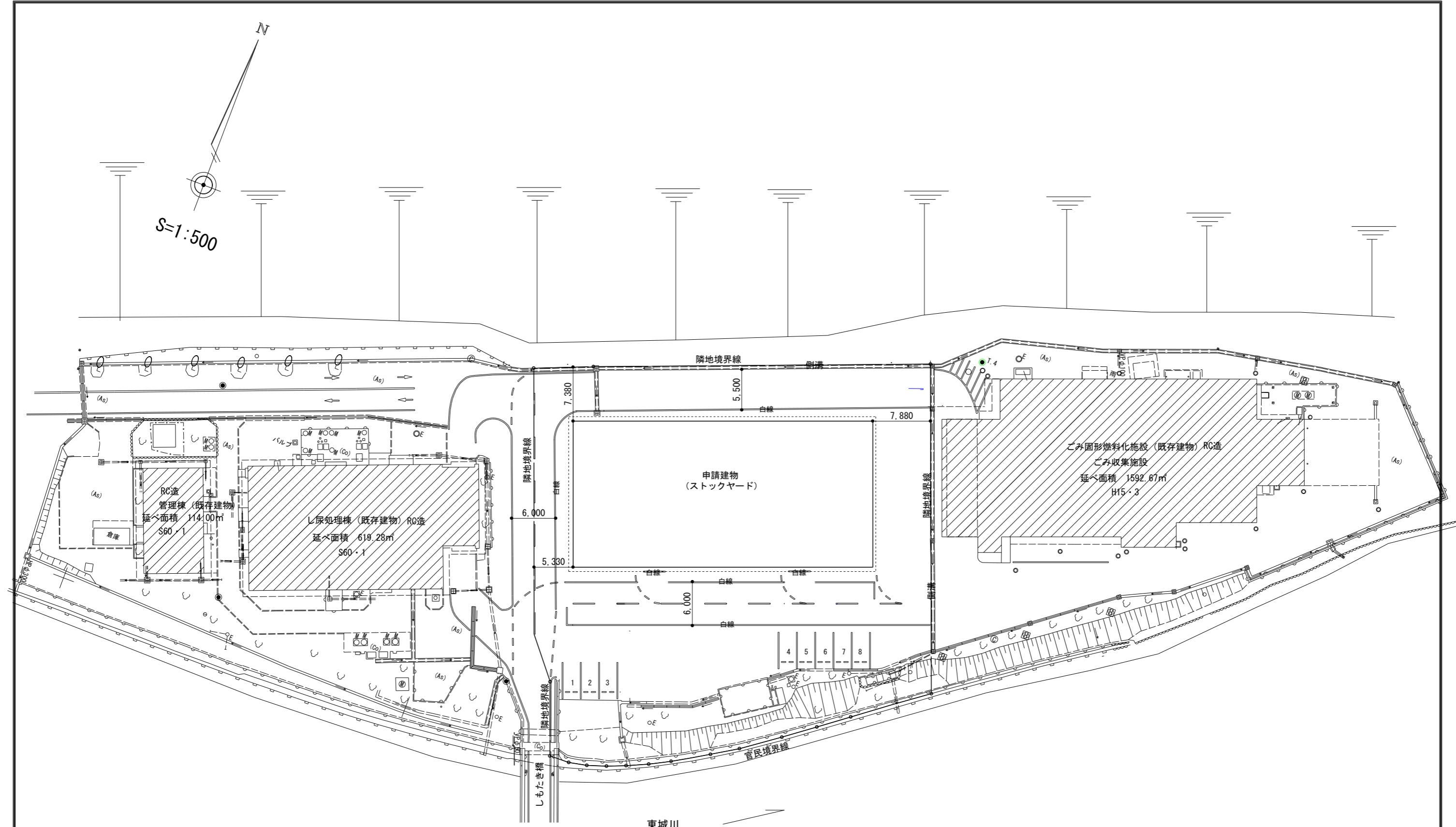
$$b = 10.000 \times 4.200 = 42.000$$



建築面積 : a = 844.56m²
 1階床面積 : a = 844.56m²
 2階床面積 : b = 42.00m²
 延べ床面積 : 886.56m²

2階面積求積図 1/200

富永建築設計事務所	1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号	東城ストックヤード施設 新築工事	縮尺	設計	図面番号
広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司	求積図	S:1/200	R7・3	A-7

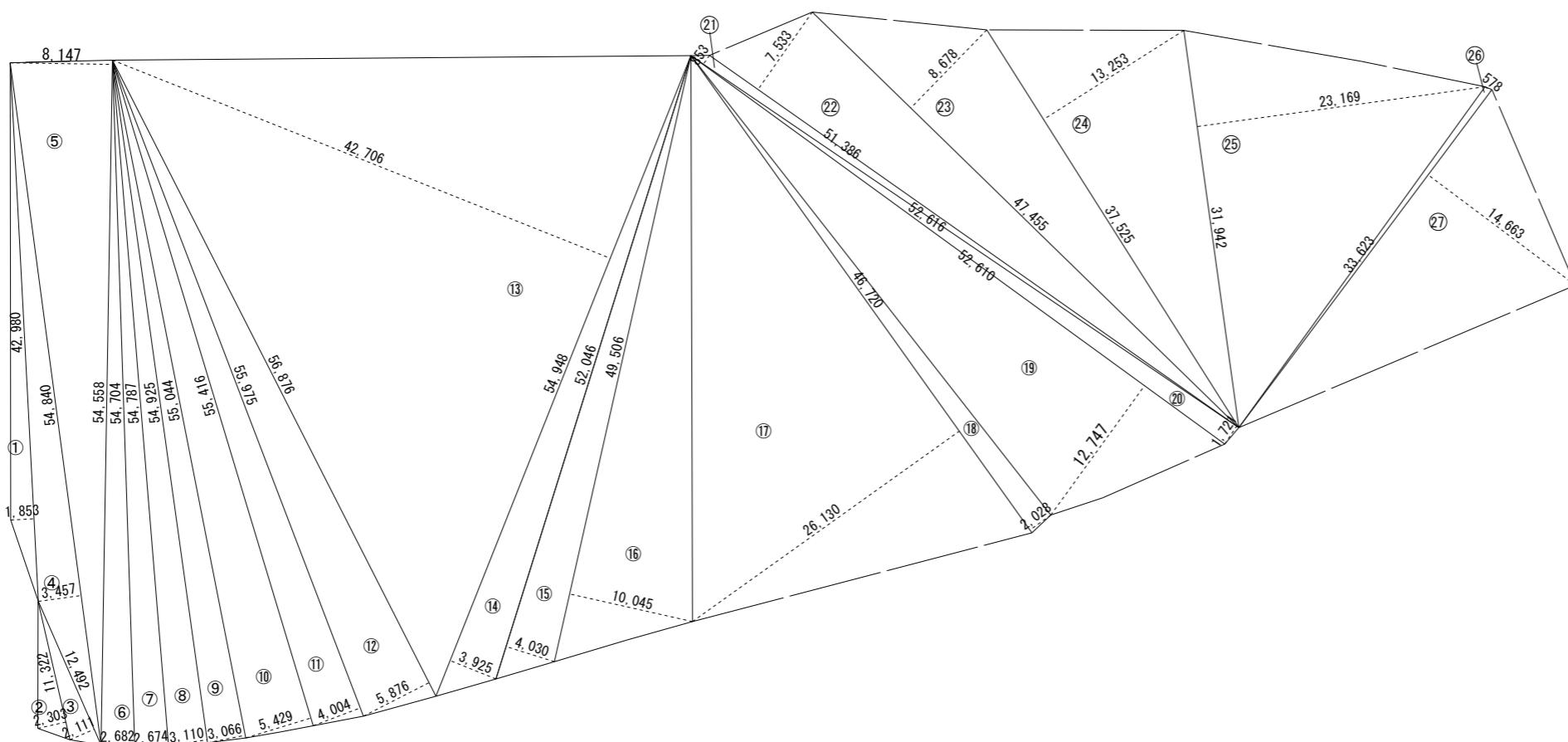


敷地配置図 1/500

	富永建築設計事務所 広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号 1級建築士登録 第211472号 富永隆司 	東城ストックヤード施設 新築工事 敷地配置図	縮尺 S:1/500	設計 R7・3	図面番号 A-8
--	---	---	---------------------------	---------------	------------	-------------

求積表

符号	底辺	高さ	倍面積
①	42.980	1.853	79.641940
②	11.322	2.303	26.074566
③	12.492	2.111	26.370612
④	54.840	3.457	489.581880
⑤	54.558	8.147	444.484026
⑥	54.704	2.682	146.716128
⑦	54.787	2.674	146.500438
⑧	54.925	3.110	170.816750
⑨	55.044	3.066	168.764904
⑩	55.416	5.429	300.853464
⑪	55.975	4.004	224.123900
⑫	55.876	5.876	328.327376
⑬	54.948	42.706	2346.609288
⑭	54.948	3.925	215.670900
⑮	52.046	4.030	209.745380
⑯	49.506	10.045	497.287770
⑰	46.720	26.130	1220.793600
⑱	46.720	2.028	94.748160
⑲	52.610	12.747	670.619670
⑳	52.616	1.721	90.552136
㉑	52.616	0.853	44.881448
㉒	51.386	7.533	387.090738
㉓	47.455	8.678	411.814490
㉔	37.525	13.253	497.318825
㉕	31.942	23.169	740.064198
㉖	33.623	0.578	19.434094
㉗	33.623	14.663	493.014049
合計		10191.90073	
× 1/2		5095.950365	
敷地面積(m ²)		5095.95	



敷地面積求積図 1/500

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆司

富永

東城ストックヤード施設 新築工事

縮尺

設計

図面番号

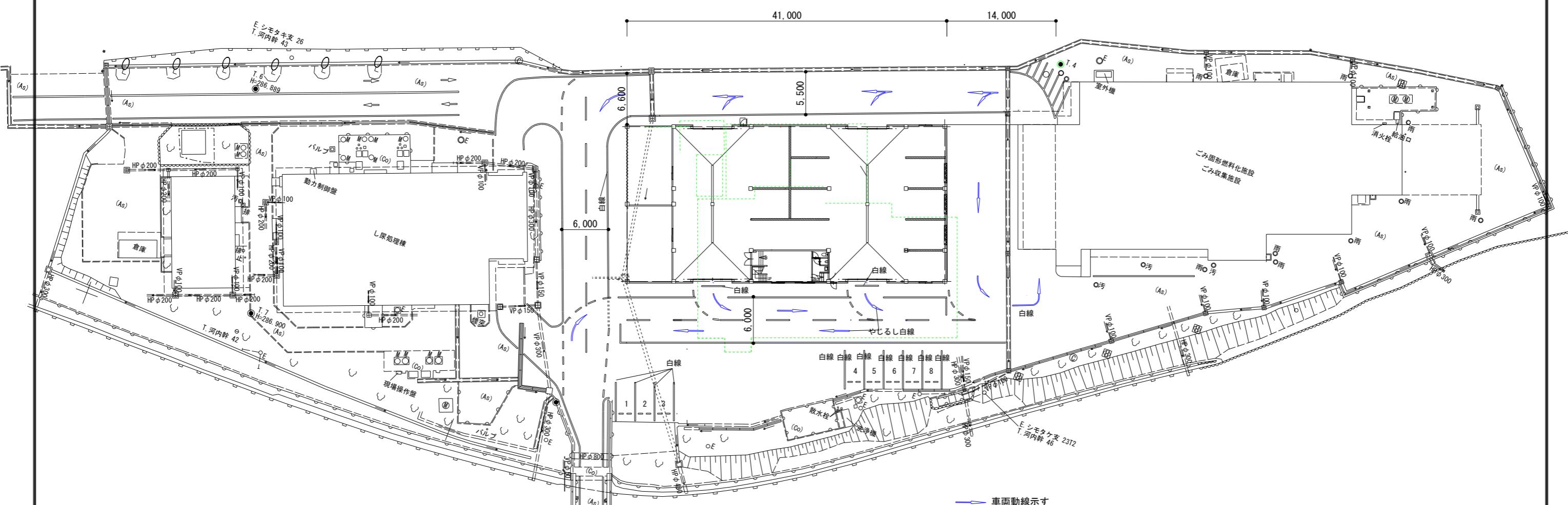
敷地面積求積図

S:1/500

R7・3

A-9

A scale bar and a north arrow are positioned in the lower-left corner of the map. The scale bar is labeled 'S=1:500' and shows a distance of 100 meters. The north arrow is a line with a crossbar and a small circle at the end.



全体平面計画図 1/500

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆

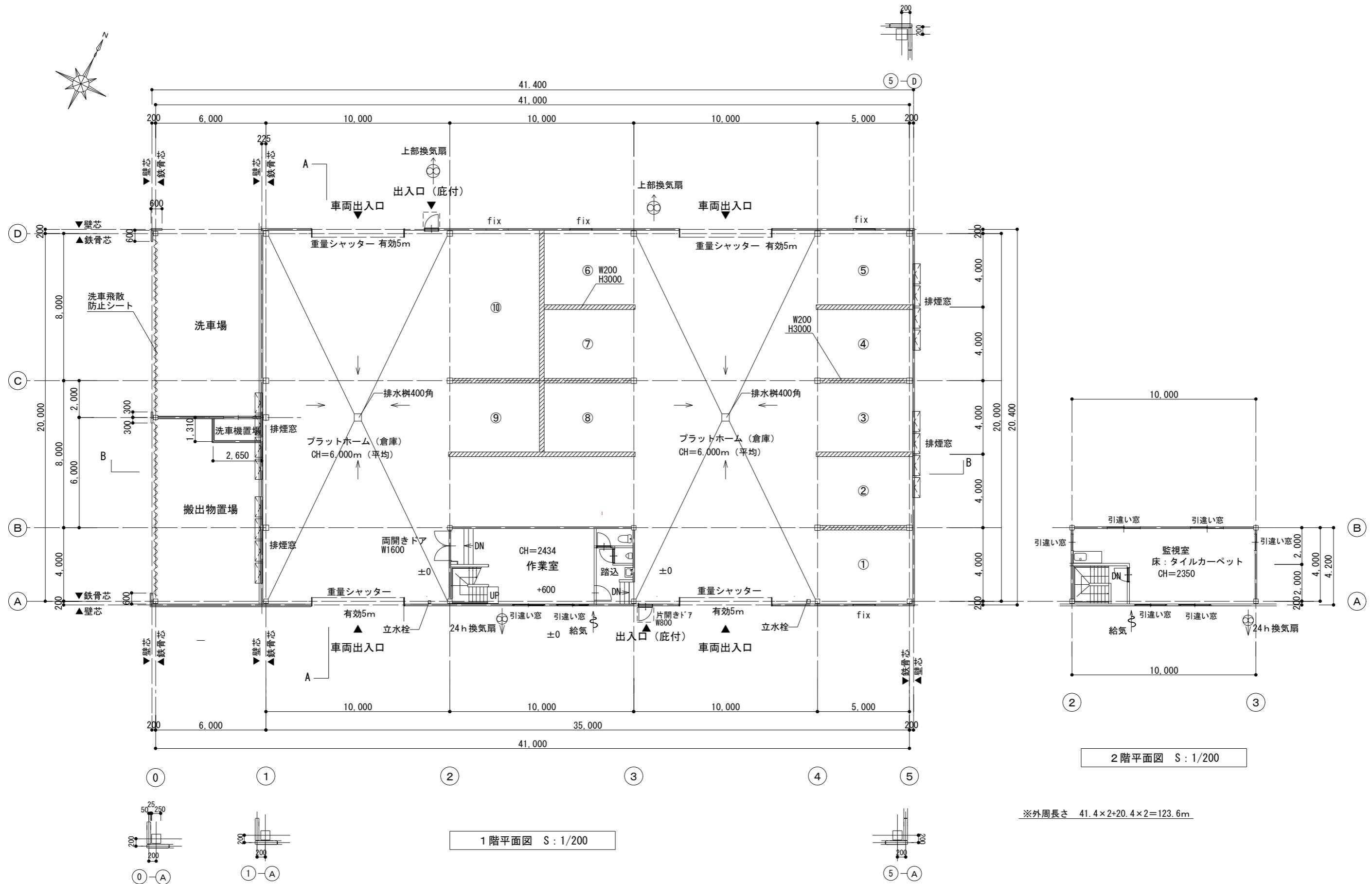
東城ストックヤード施設 新築工事

全体平面計画図

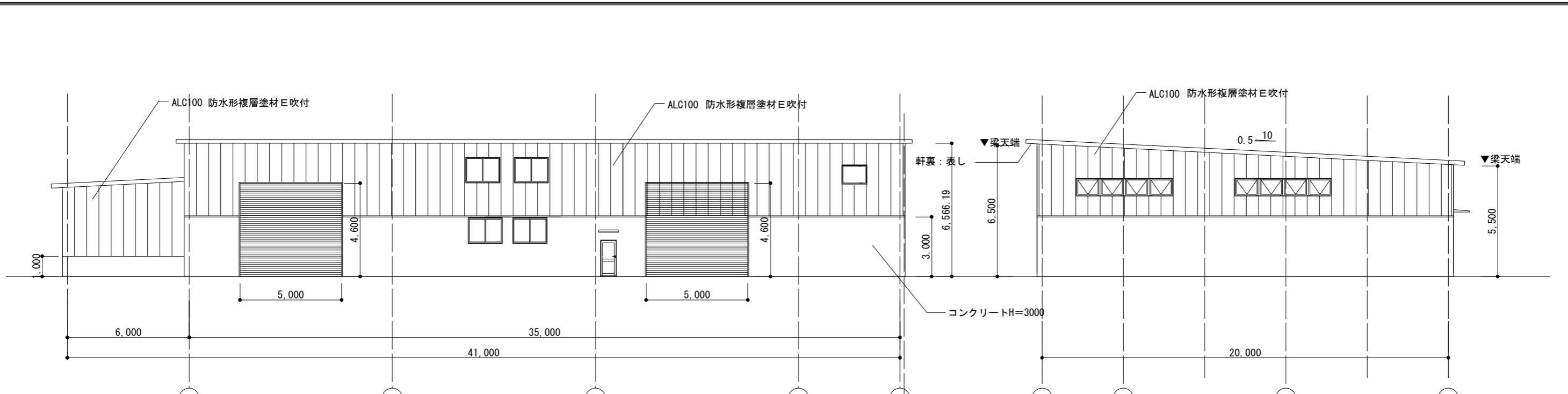
S:1/50

設計

図面番号
A-10

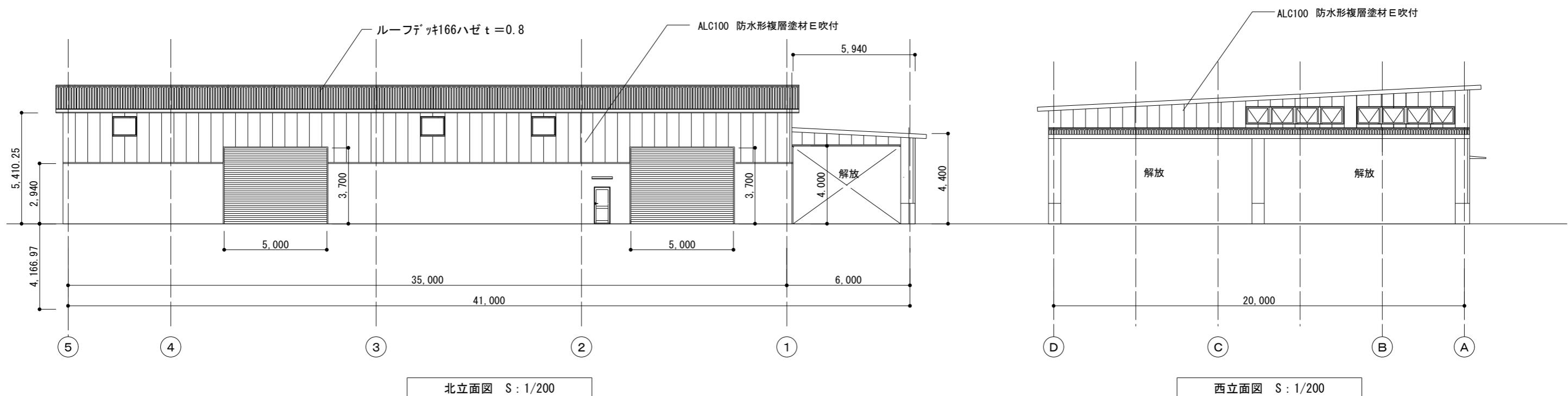


富永建築設計事務所	1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号	東城ストックヤード施設 新築工事	縮尺	設計	図面番号
広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司	平面図	S:1/200	R7・3	A-11



南立面図 S : 1/200

東立面図 S : 1/200



北立面図 S : 1/200

西立面図 S : 1/200

富永建築設計事務所

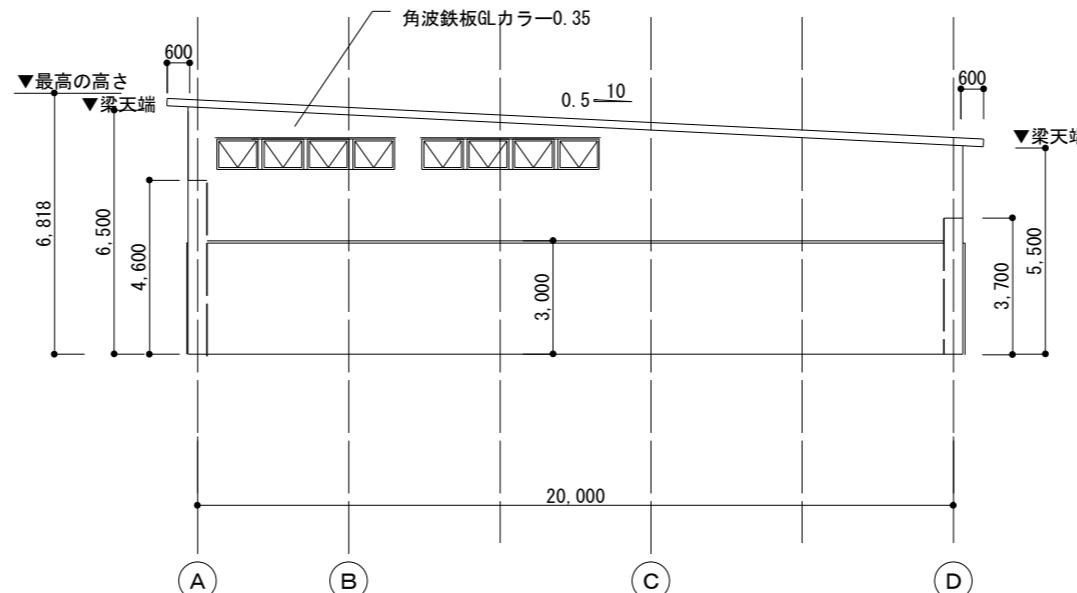
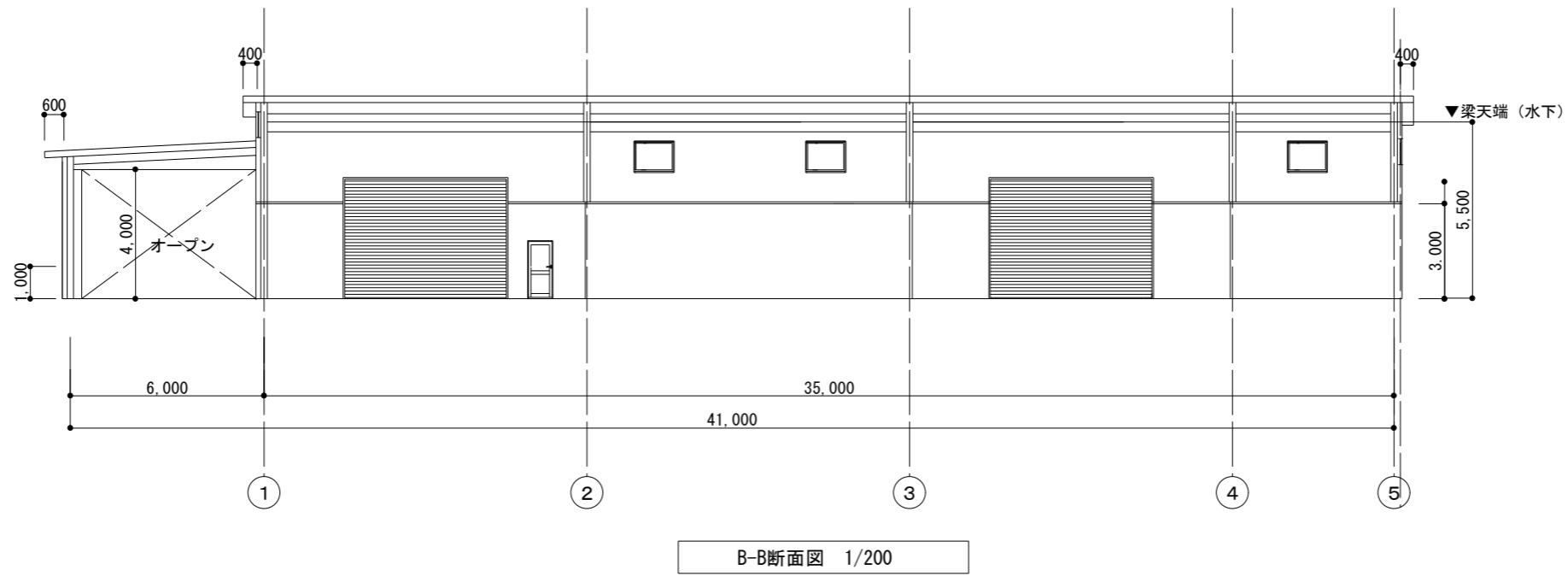
広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-66691級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆司

東城ストックヤード施設 新築工事

立面図

縮尺 S:1/200
設計 R7・3

図面番号 A-12



富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号

1級建築士登録
第211472号 富永隆司



東城ストックヤード施設 新築工事

断面図

縮尺

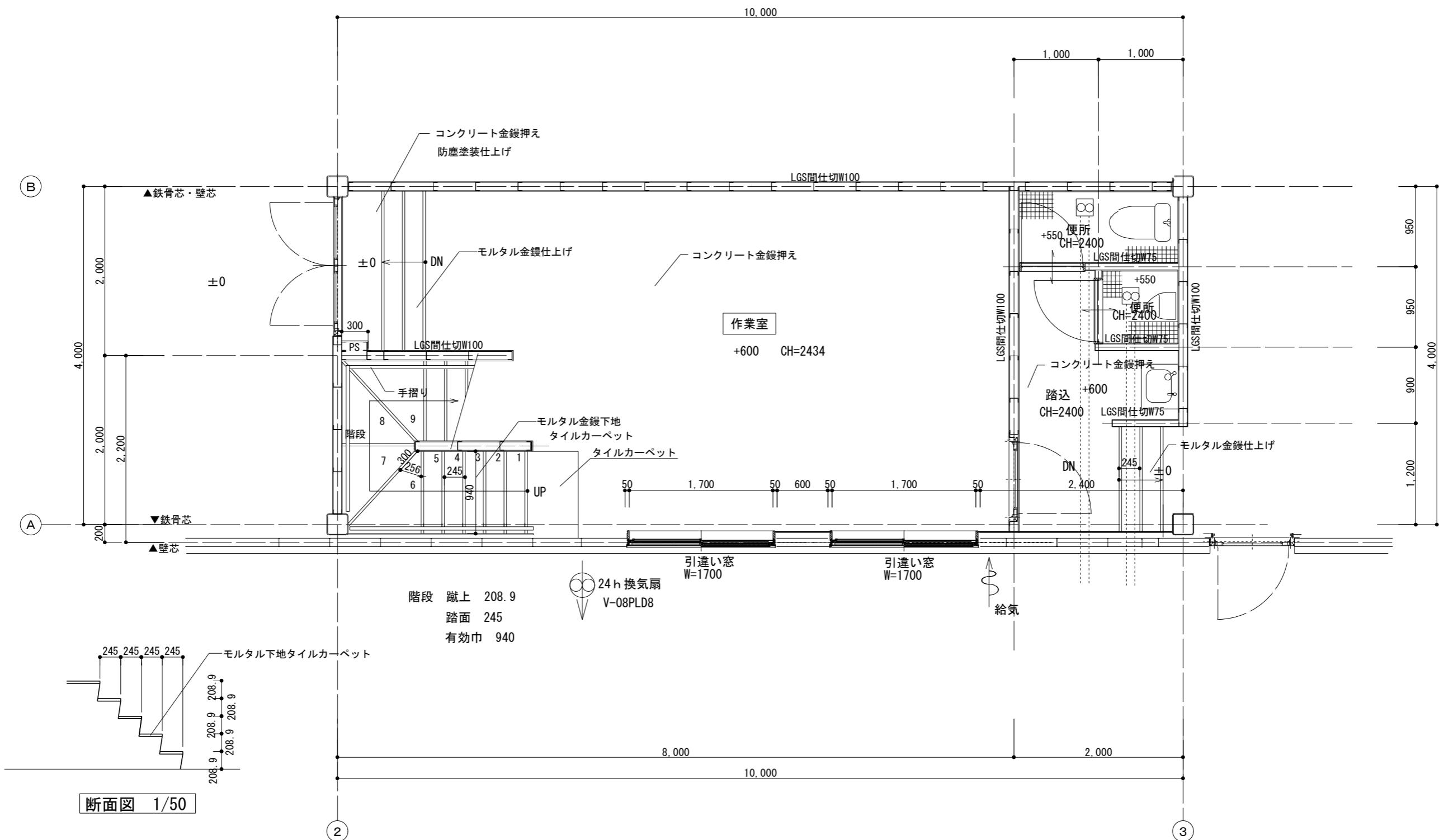
S:1/200

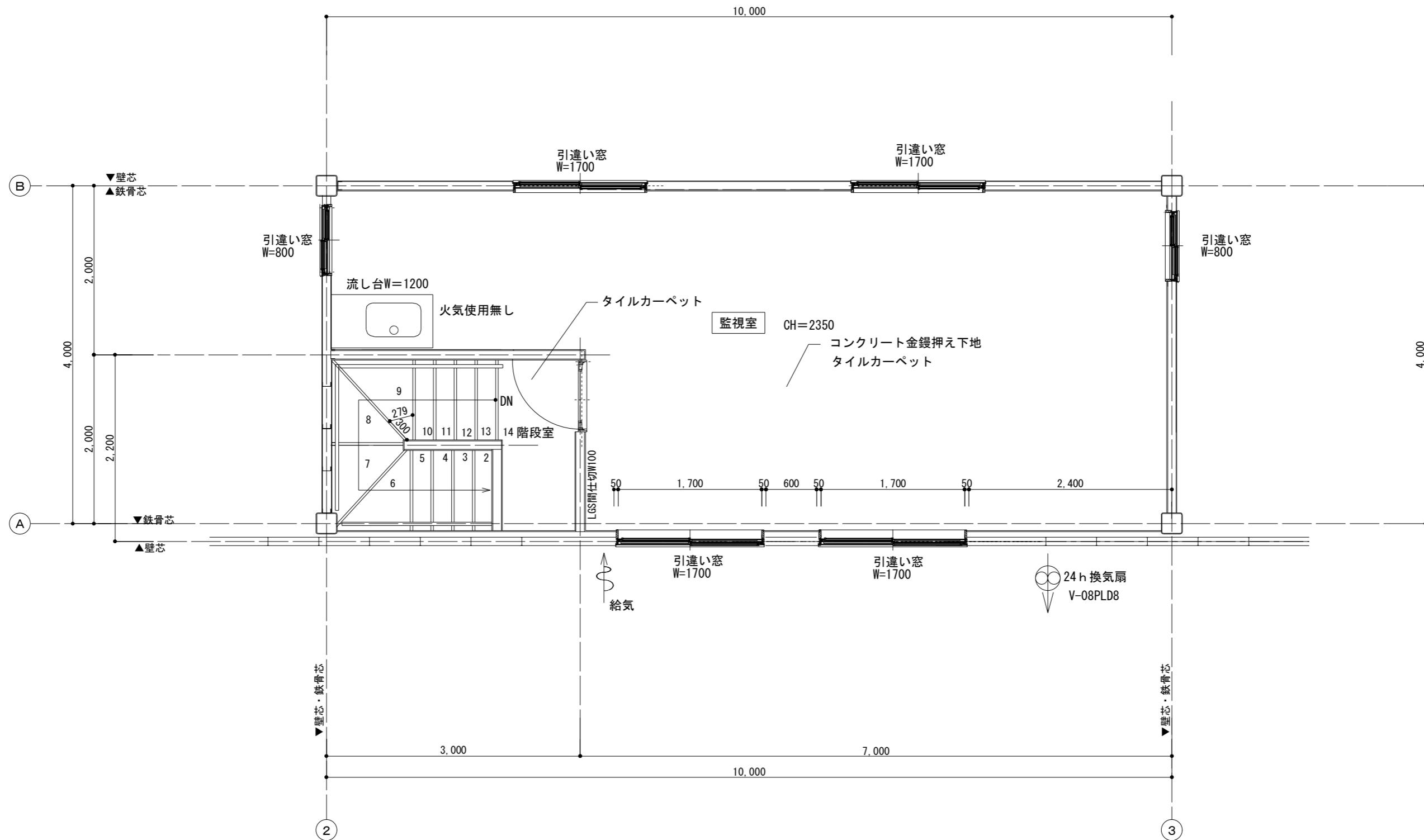
設計

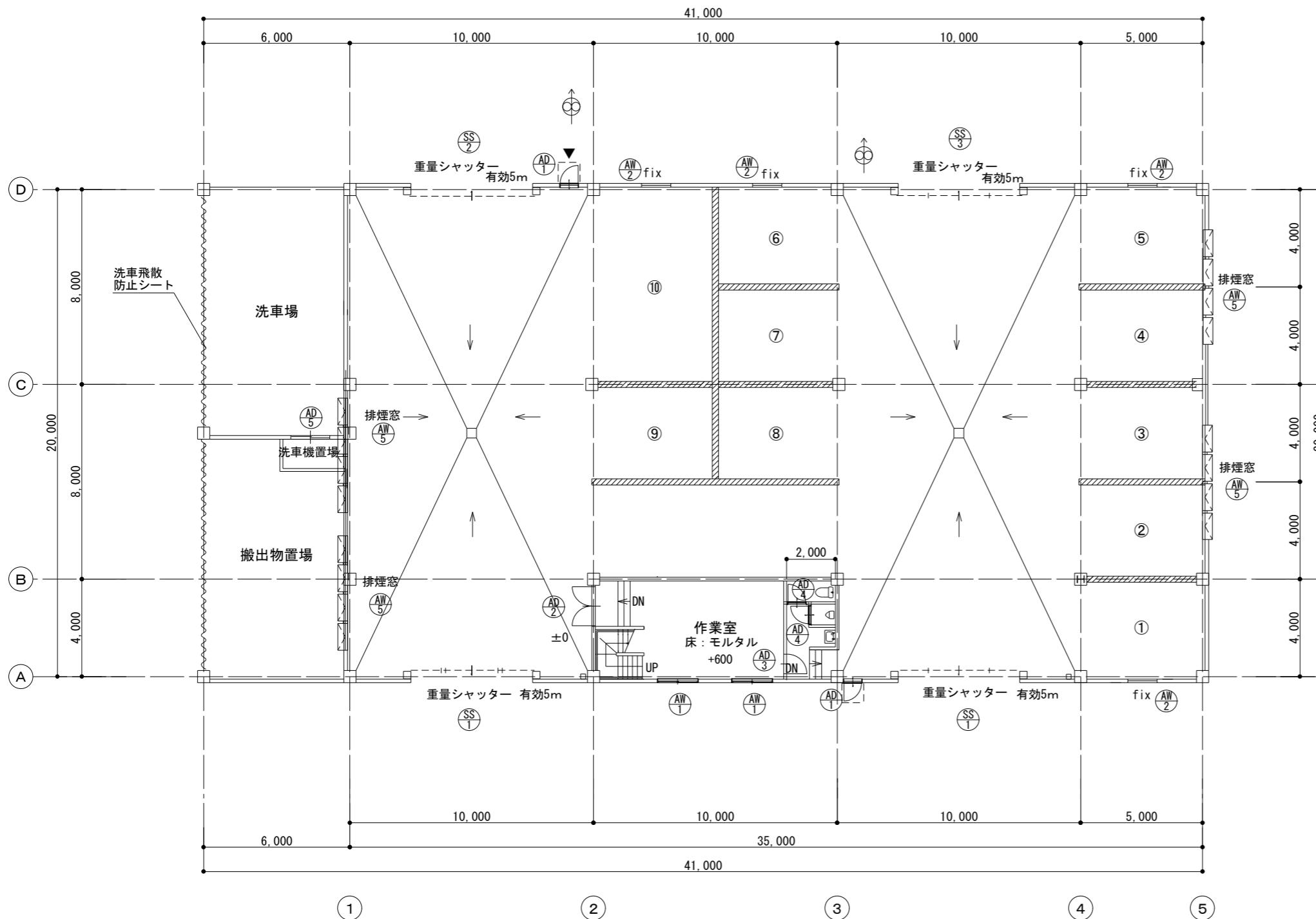
R7・3

図面番号

A-13

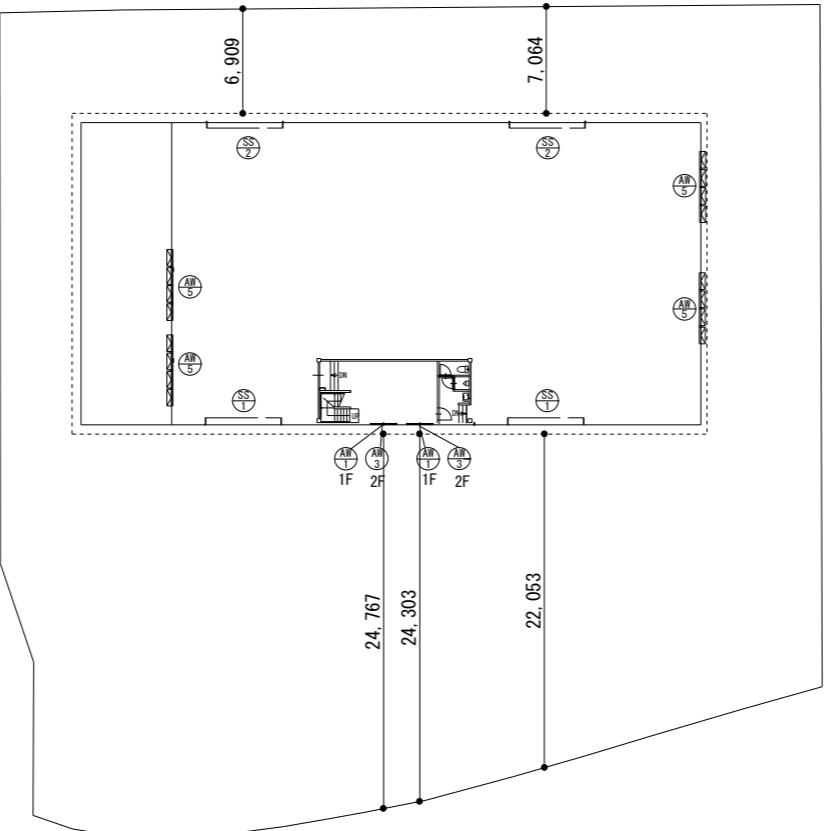






富永建築設計事務所	1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号	東城ストックヤード施設 新築工事	縮尺	設計	図面番号
広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司	建具配置図	S:1/200	R7・3	A-16

	富永建築設計事務所 1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号 広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司 	東城ストックヤード施設 新築工事	縮尺	設計	図面番号
			建具表	S:1/100	R7・3	A-17



シックハウス対策 (II)

	床面積	天井高	気積
1F 作業室	33.60	2.434	81.7824
階段室	6.60	5.558	36.6828
合計			118.4652
×1/2			59.24

24時間換気扇 V-08PLD8 (75m³/h)

	床面積	天井高	気積
2F 監視室	29.40	2.350	69.09
合計			69.09
×1/2			34.55

24時間換気扇 V-08PLD8 (75m³/h)

シックハウス対策 (III)

(天井裏等への措置)

天井裏等 (小屋裏、床裏、外壁、間仕切壁、収納等)
の仕様材料は全て F ☆☆☆☆とする。

(建材等への措置)

全て F ☆☆☆☆とする。

採光・換気チェック

	採光		換気		排煙	
	必要	有効	必要	有効	必要	有効
1F プラットホーム (680.16m ²)	34.01	SS1 5.0×4.6×2ヶ所=83.00 SS2 5.0×3.7×2ヶ所=83.00	34.01	SS1 5.0×4.6×2ヶ所=83.00 SS2 5.0×3.7×2ヶ所=83.00	13.60	AW5 1.1×0.8×4×4ヶ所=14.08
作業室 (33.60m ²)	1.68	AW1 1.7×1.2×3×2ヶ所=12.24	1.68	AW1 1.7×1.2÷2×2ヶ所=2.04	0.68	AW1 1.7×0.666÷2×2ヶ所=1.13
2F 監視室 (35.40m ²)	1.77	AW3 1.7×1.2×3×2ヶ所=12.24	1.77	AW3 1.7×1.2÷2×2ヶ所=2.04	0.71	AW4 1.7×0.75÷2×2ヶ所=1.27

※採光補正係数 全て3.0

1階作業室
8.00×4.20=33.60
2階監視室
10.00×4.20-3.00×2.20=35.40
プラットホーム
35.40×20.40-10.00×4.20=680.16

富永建築設計事務所

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆司

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

富永

東城ストックヤード施設 新築工事

縮尺

設計

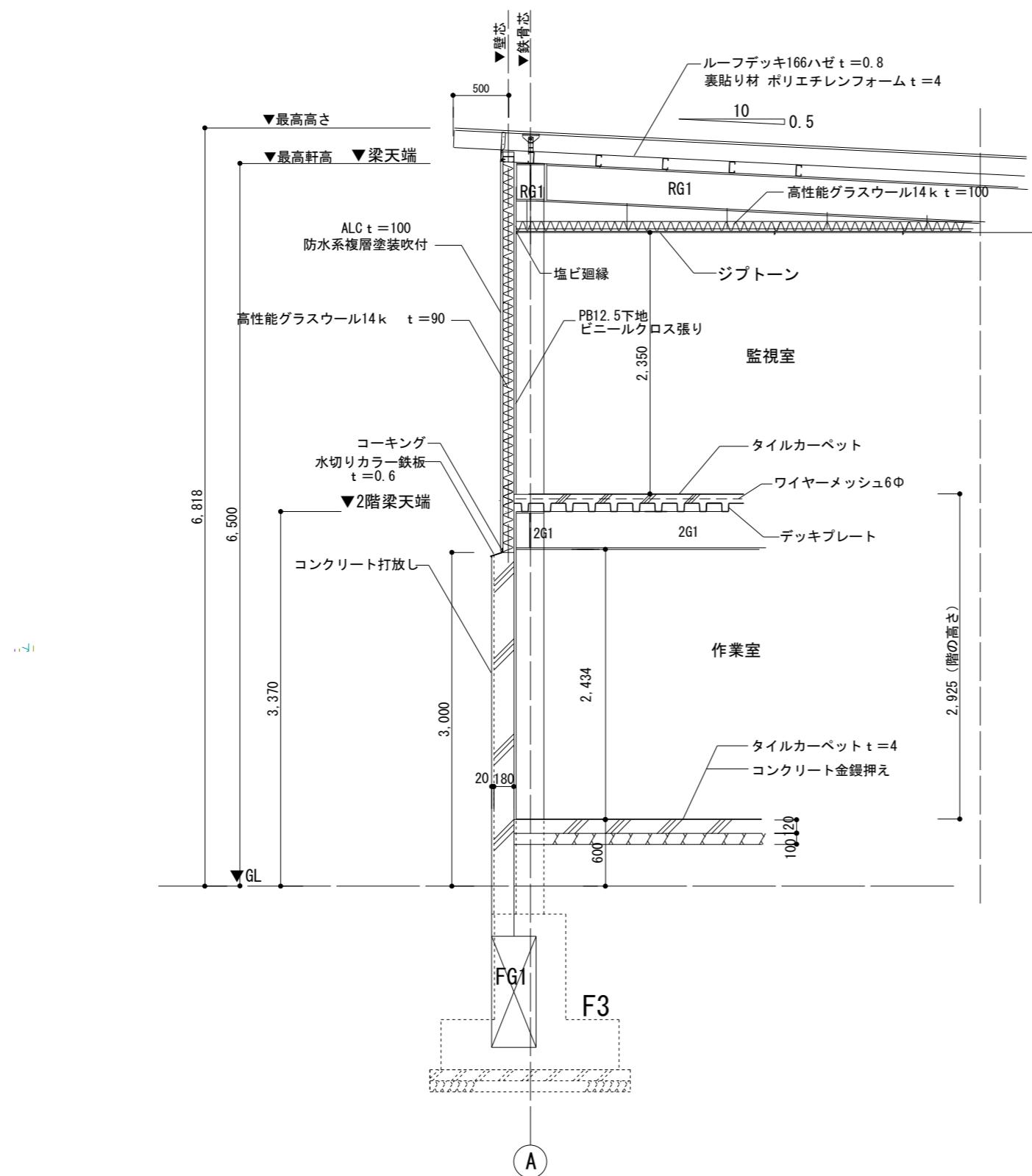
図面番号

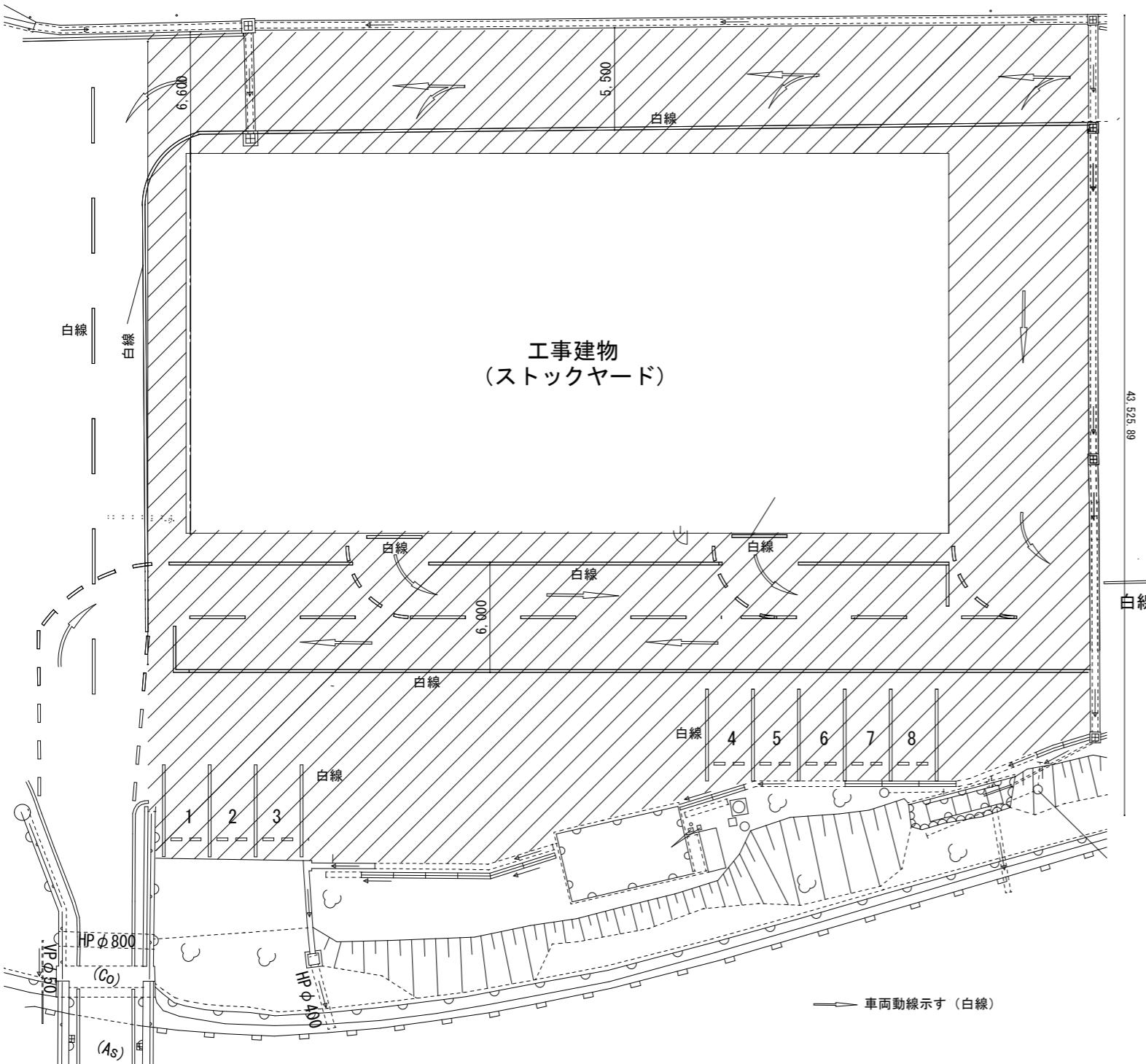
法規チェック

S:1/500

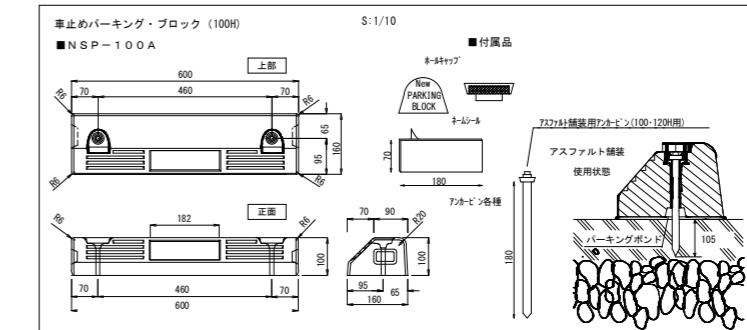
R7・3

A-18





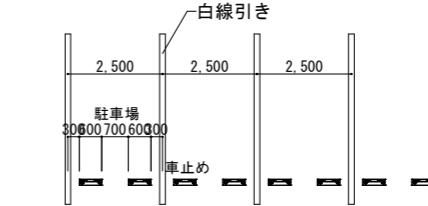
敷地配置図 1/300



車止め詳細図 1/20

駐車場区画線・構内ライン・矢印ライン

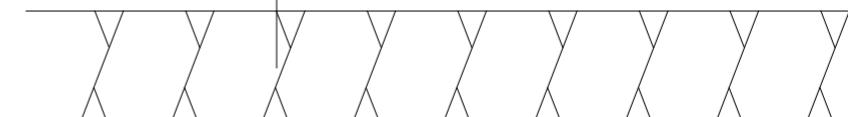
白線引き 溶融手動式 厚2.0 幅150



アスファルト舗装

舗装部分

アスファルト舗装
厚50 再生密粒度アスコン
プライムコート PK-3
厚150 路盤材 クラッシャラン RC-40

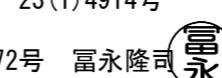


富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号

1級建築士登録
第211472号 富永隆司



東城ストックヤード施設 新築工事

外構図

縮尺

S:1/300
S:1/20

設計

R7・3

図面番号

A-20

建物概要等

1. 構造概要

構造概要					
構造種別	地上 ()階~()階(鉄骨)造 地下 ()階~()階()造				
架構形式	X方向 (ラーメン)構造 Y方向 (ラーメン)構造				
耐震構造方式	●耐震構造・制振構造 ・免震構造(免震層の位置・基礎下免震・中間階免震()階)				
基礎方式	●直接基礎(独立・連続・べた・) ・杭基礎(・場所打ちコンクリート杭・既製コンクリート杭・鋼管杭・)				
耐震安全性の分類	・ I 類(1.5)・ II 類(1.25) ● III 類(1.0)				
耐風に関する性能の分類	・ I 類(1.3)・ II 類(1.15) ● III 類(1.0)				

2. 構造設計条件等

計算方法

	X方向	Y方向	備考
許容応力度計算(令第82条各号+令第82条の4)【ルート1】	・	・	
許容応力度等計算【ルート2】	●	●	
保有水平耐力計算【ルート3】	・	・	
限界耐力計算	・		
その他の計算法()	・	・	
構造計算適合性判定機関()			
特別な検証法(時刻歴応答解析による)		・	
大臣認定(認定番号)			
指定性能評価機関()			
評価・高層評価・免震評価・その他(評価番号)			

外力等

			備考
地震力	設計用一次固有周期(0.6)秒		
	地盤地域係数(Z) Z= 1.0 ● 0.9 0.8 0.7		
	地盤の種別 第(2)種地盤 Tc=(0.6)秒		
	標準せん断力係数	X方向 Y方向	
	一次設計 CO=(0.2)	CO=(0.2)	
	二次設計 CO=()	CO=()	
風圧力(施行令 第87条)	地表面粗度区分 基準風速(V0)	速度圧(q)	
	・ I ・ II ● III ・ IV (30)m/s	738	
風圧力(施行令 第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速(V0)	平均速度圧(q)	
	・ I ・ II ● III ・ IV (30)m/s		
積雪荷重	区域	・多雪区域 ●多雪区域以外(特定緩勾配屋根・有●無)	
	設計垂直積雪量(41)cm		
	単位荷重(920)N/m ²		
	垂直積雪量の低減	・低減する ● 低減しない	

3. 地盤調査資料

※当該敷地の既往調査報告書

●構造図による

4. 流状化対策

・有り

(範囲・工法・仕様・計測・試験等については構造図を参照)

●無し

構造関係共通事項(配筋標準図)																																									
1. 鉄筋の加工																																									
鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。																																									
表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">折曲げ 角 度</th> <th rowspan="3">折曲げ図 (余長)</th> <th colspan="3">折曲げ内法直径 (D)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">鉄筋の 種類</th> <th colspan="2">SD 295、SD 345</th> </tr> <tr> <th>呼び名</th> <th>D 16 以下</th> <th>D 19 ～D 38</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>180°</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>135°</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>90°</td> <td></td> <td>3d 以上</td> <td>4d 以上</td> <td>5d 以上</td> </tr> <tr> <td>135° 及び 90° (幅止め筋)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		折曲げ 角 度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径 (D)			鉄筋の 種類	SD 295、SD 345		呼び名	D 16 以下	D 19 ～D 38	180°				135°				90°		3d 以上	4d 以上	5d 以上	135° 及び 90° (幅止め筋)															
折曲げ 角 度	折曲げ図 (余長)			折曲げ内法直径 (D)																																					
				鉄筋の 種類	SD 295、SD 345																																				
		呼び名	D 16 以下		D 19 ～D 38																																				
180°																																									
135°																																									
90°		3d 以上	4d 以上	5d 以上																																					
135° 及び 90° (幅止め筋)																																									
<p>1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。</p> <p>2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。</p>																																									
2.1 異形鉄筋の末端部																																									
次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。																																									
(1) 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部																																									
図2.1 末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋 (●印)																																									
<p>(2) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)</p> <p>(3) 抗基礎のベース筋</p> <p>(4) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋</p>																																									
3.1 継手及び定着																																									
(a) 鉄筋の重ね継手																																									
(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。																																									
(2) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁を除く鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。																																									
表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>鉄筋の 種類</th> <th>コンクリートの 設計基準強度 F_c (N/mm²)</th> <th>L 1 (フックなし)</th> <th>L 1 h (フックあり)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">SD295</td> <td>18</td> <td>45d</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>40d</td> <td>30d</td> </tr> <tr> <td>24, 27</td> <td>35d</td> <td>25d</td> </tr> <tr> <td>30, 33, 36</td> <td>35d</td> <td>25d</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">SD345</td> <td>18</td> <td>50d</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>45d</td> <td>30d</td> </tr> <tr> <td>24, 27</td> <td>40d</td> <td>30d</td> </tr> <tr> <td>30, 33, 36</td> <td>35d</td> <td>25d</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">SD390</td> <td>21</td> <td>50d</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td>24, 27</td> <td>45d</td> <td>35d</td> </tr> <tr> <td>30, 33, 36</td> <td>40d</td> <td>30d</td> </tr> </tbody> </table>		鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L 1 (フックなし)	L 1 h (フックあり)	SD295	18	45d	35d	21	40d	30d	24, 27	35d	25d	30, 33, 36	35d	25d	SD345	18	50d	35d	21	45d	30d	24, 27	40d	30d	30, 33, 36	35d	25d	SD390	21	50d	35d	24, 27	45d	35d	30, 33, 36	40d	30d
鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L 1 (フックなし)	L 1 h (フックあり)																																						
SD295	18	45d	35d																																						
	21	40d	30d																																						
	24, 27	35d	25d																																						
	30, 33, 36	35d	25d																																						
SD345	18	50d	35d																																						
	21	45d	30d																																						
	24, 27	40d	30d																																						
	30, 33, 36	35d	25d																																						
SD390	21	50d	35d																																						
	24, 27	45d	35d																																						
	30, 33, 36	40d	30d																																						
	<p>(注) 1. L 1, L 1 h: 重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ</p> <p>2. フックありの場合のL 1 hは、図3.1に示すようにフック部分 ϱ を含まない。</p> <p>3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。</p>																																								
図3.1 フックありの場合の重ね継手の長さ																																									
23(1)4914号																																									
472号 富永隆司																																									
東城ストックヤード施																																									
特記仕様書																																									

(3) 耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、フックありなしにかかわらず $40d$ 以上（軽量コンクリートの場合は $50d$ 以上）又は表3.1の重ね継手の長さのうちいすれか大きい値とする。

(4) 傾り合う継手の位置は、表3.2による。

ただし、スラブ筋で $D \leq 16$ の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 傾り合う継手の位置

重ね継手	フックありの場合	
	フックなしの場合	
溶接継手	ガス圧接継手	
	機械式継手	

(b) 鉄筋の定着

(1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

(2) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の直線定着長さは、 $40d$ 以上（軽量コンクリートの場合は $50d$ 以上）とする。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ			フックあり定着の長さ		
		L1 L2		L3	L1h L2h		L3h
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295	18	45d	40d	10d かつ 20d 以上 (片持小梁の場合は25d)	35d	30d	10d —
	21	40d	35d		30d	25d	
	24, 27	35d	30d		25d	20d	
SD345	30, 33, 36	35d	30d	150mm 30d 25d 30d 25d 25d 20d	35d	30d	10d —
	18	50d	40d		30d	25d	
	21	45d	35d		30d	25d	
SD390	24, 27	40d	35d	25d 35d 30d	30d	25d	—
	30, 33, 36	35d	30d		35d	30d	
	21	50d	40d		30d	25d	
SD390	24, 27	45d	40d	35d 30d	35d	30d	—
	30, 33, 36	40d	35d		30d	25d	

(注) 1. L_1 、 L_1h : 2. から 4. までの直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 2. L_2 、 L_2h : 割裂破壊のおそれのない箇所での直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 3. L_3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐震スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
 4. L_3h : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 \varnothing を含まない。
 また、中間部での折曲げは行わない。
 6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

(2) 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i)、(ii)及び(iii)をすべて満足するものとする。

(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上

(ii) 余長は $5d$ 以上とする。

(iii) 仕口面から鉄筋外までの投影定着長さ L_a 及び L_b は表3.4に示す長さとする。

ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの $3/4$ 倍以上とする。

図3.3 折曲げ定着の方法

設新築工事	縮尺	設計	図面番号
		R7・3	S-1

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計標準強度 f_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
	30, 33, 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

(注) 1. L_a : 梁筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
(基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)
2. L_b : 小梁及びスラブの上端筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
(片持小梁及び片持スラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(3) 溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、 L_1 は表3.1に、 L_2 及び L_3 は表3.3による。

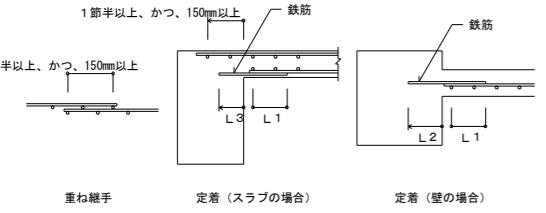


図3.4 溶接金網の継手及び定着

(4) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による

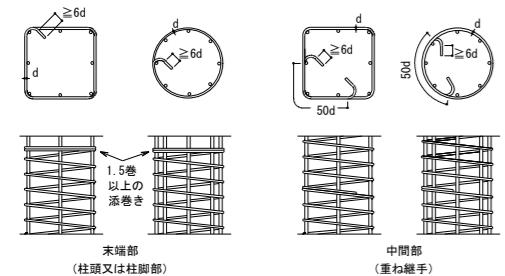


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

(a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋に2.9以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

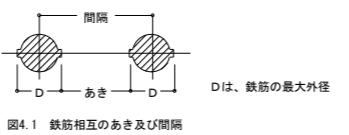
構造部分の種別		最小かぶり厚さ (mm)
柱に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり 20 仕上げなし 30
	柱、梁、耐力壁	仕上げあり 30 仕上げなし 30
	屋内	30
	屋外	30 仕上げあり 40 仕上げなし 40
柱に接する部分	擁壁、耐圧スラブ	40
	柱、梁、スラブ、壁	40
	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
	煙突等高熱を受ける部分	60

(注) 1. この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。
また、塩害を受けるおそれのある部材等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接柱に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 桁基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭尖端からとする。

(b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

(c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

(d) 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 2.5mm
(3) 隣り合う鉄筋の径の平均(呼び名の数値)の1.5倍



(e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。
(f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

(a) 一般事項

(1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b)による。

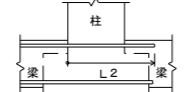
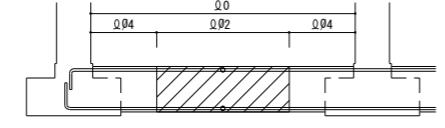


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

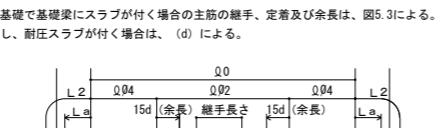
(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

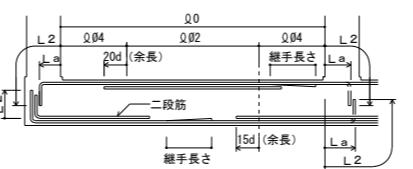


(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

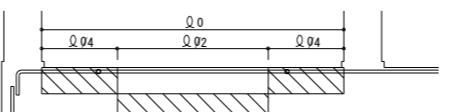


(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

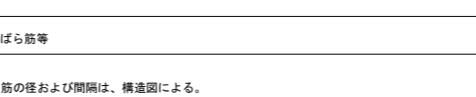
(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



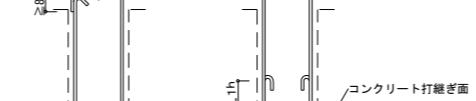
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)



(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)

(b) 柱打増し部

(1) 打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合の壁、梁、スラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。
(2) 土に接する柱周囲の打増しは図6.2による。

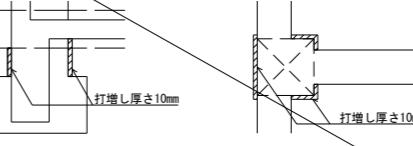


図6.2 柱打増し部

(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。
2. 印は、継手及び余長位置を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。

(d) 大梁主筋の継手及びびび定着の一般事項

(1) 継手中心位置は、次による。
上端筋: 中央 $L_0/2$ 以内
下端筋: 柱面より梁せい (D) 以上離し、 $L_0/4$ を加えた範囲以内
(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図7.1及び図7.4による。
(3) 鉄筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図7.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。

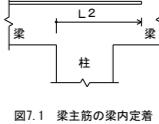


図7.1 梁主筋の梁内定着

(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は3.1(b) (2)による。

上端筋: 曲げ降ろす
下端筋: (一般): 原則、曲げ上げる。
下端筋: (ハンチ付き): 原則、曲げ上げる。

(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は構造図による。

(6) 段違い梁は、図7.2による。

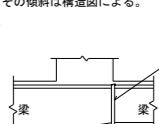


図7.2 段違い梁

(c) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図7.3による。



図7.3 大梁の重ね継手、定着及び余長

(d) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_0/4$ (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

(b) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_0/4$ (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

(b) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_0/4$ (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

(b) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_0/4$ (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

(b) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_0/4$ (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。

(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

(b) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、 $3h_0/4$ (h_0 は柱の内法高さ) 以下とする。

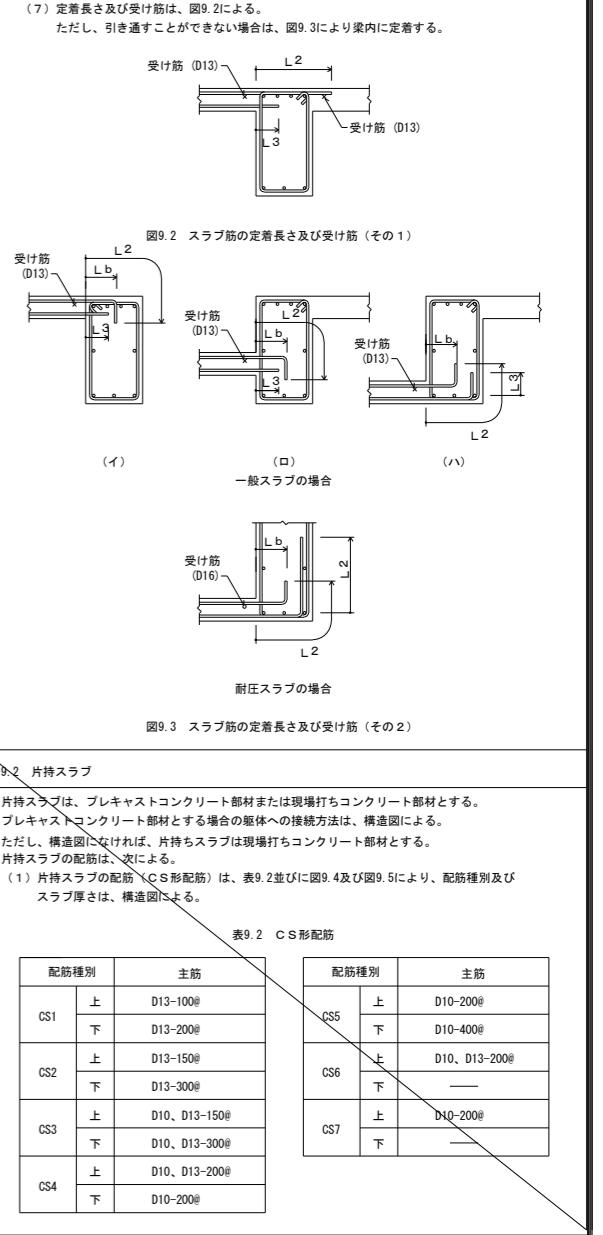
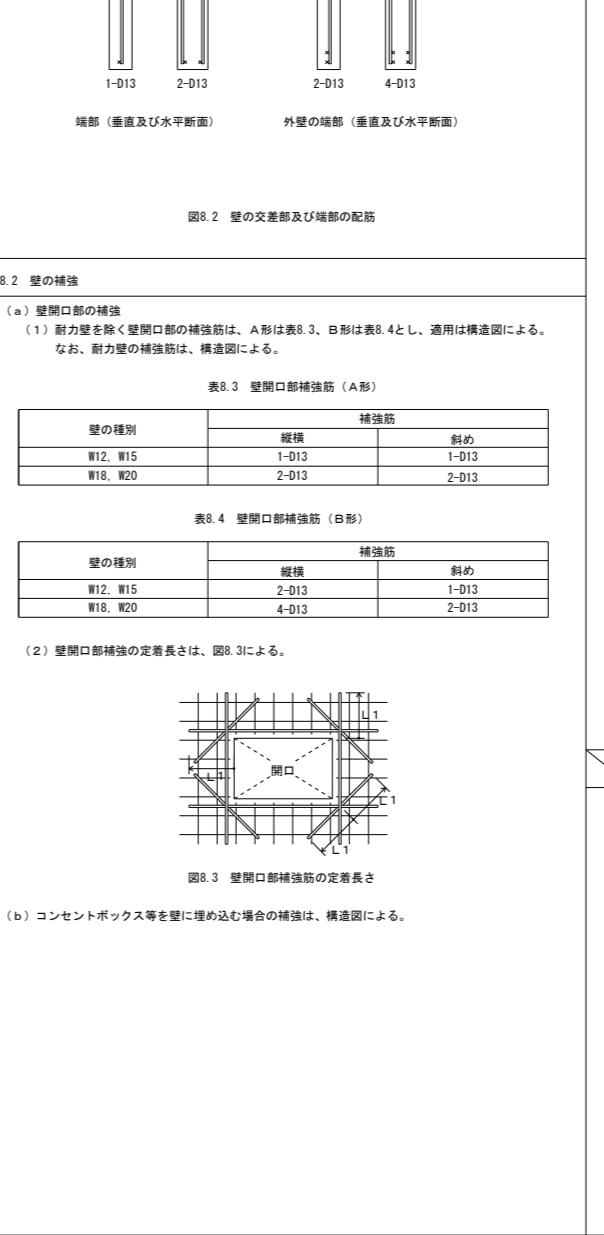
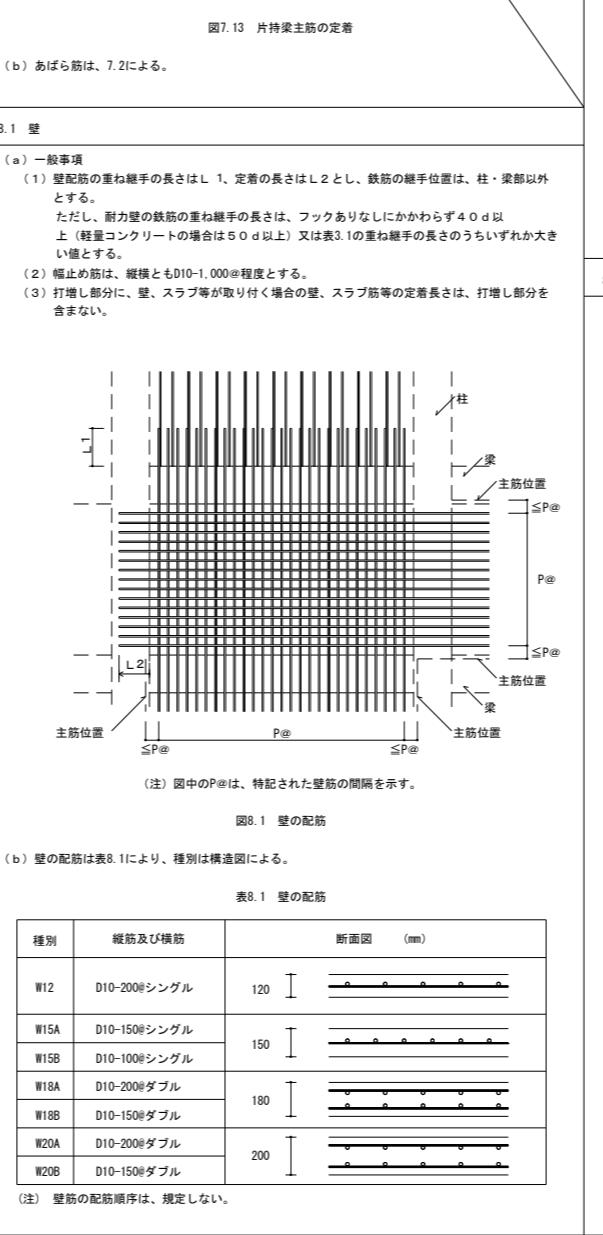
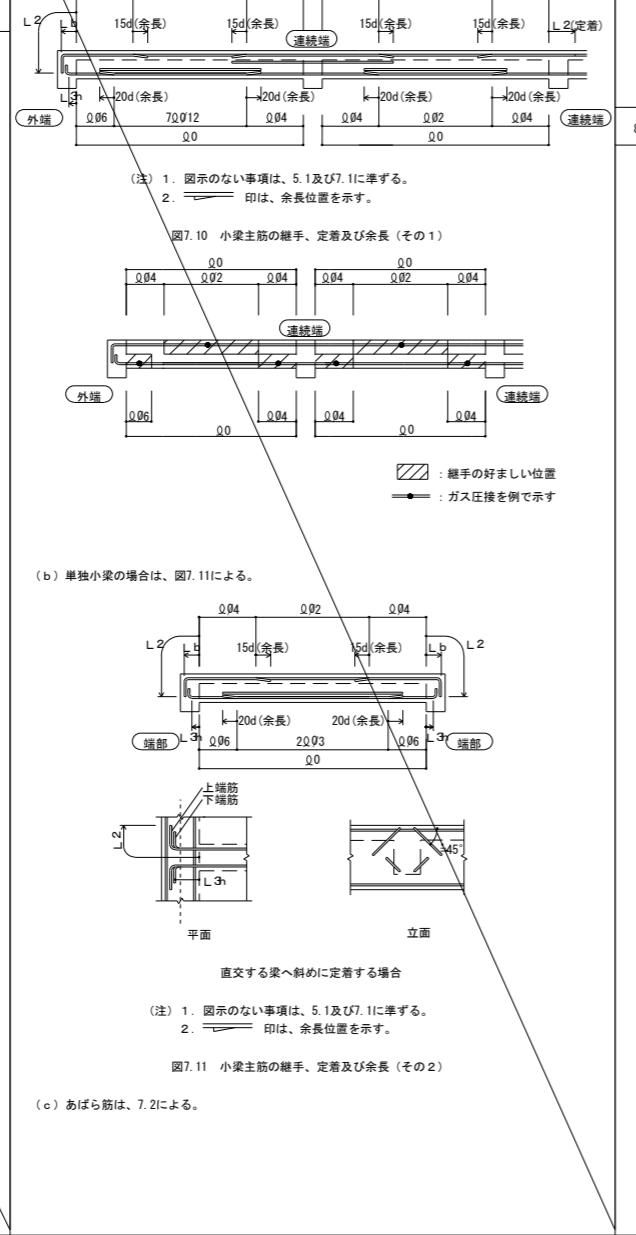
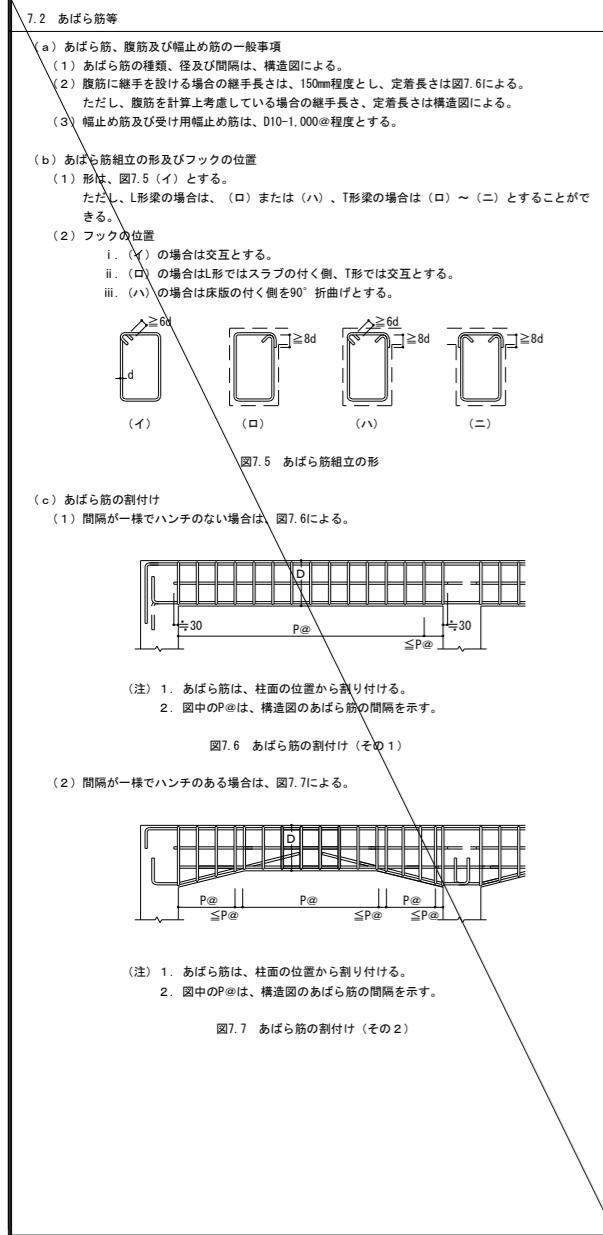
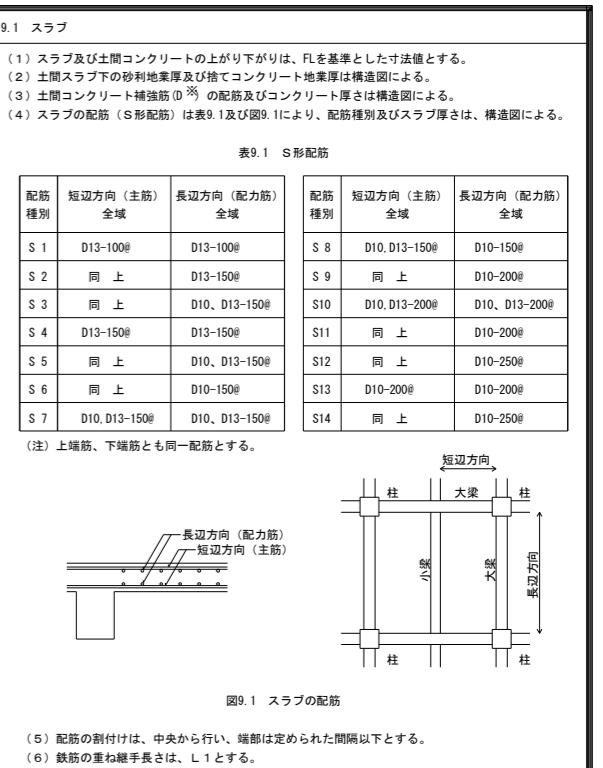
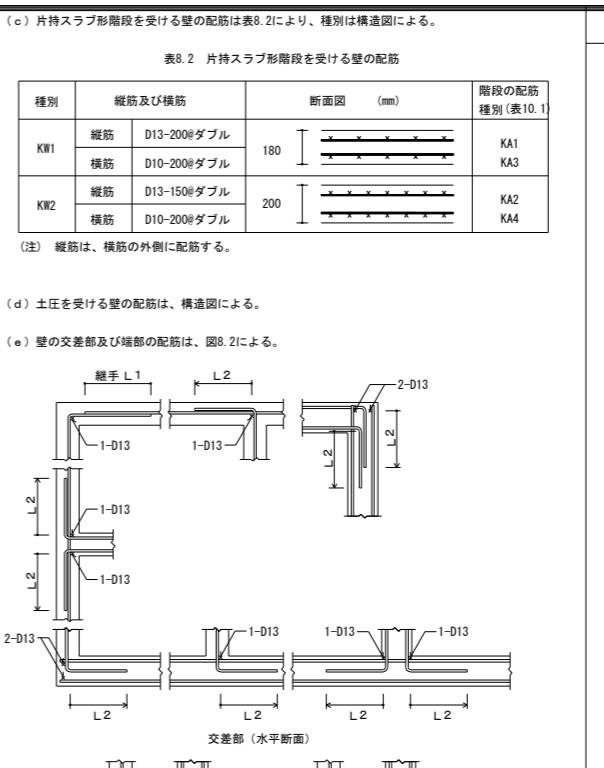
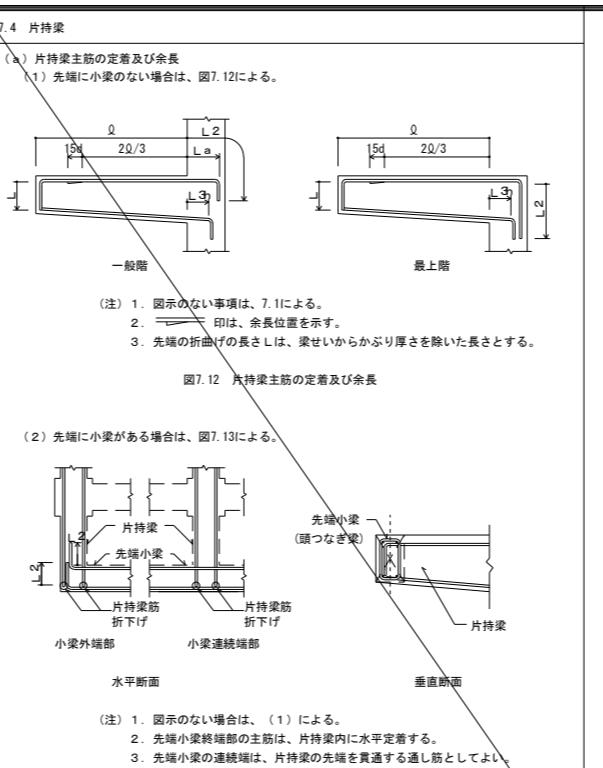
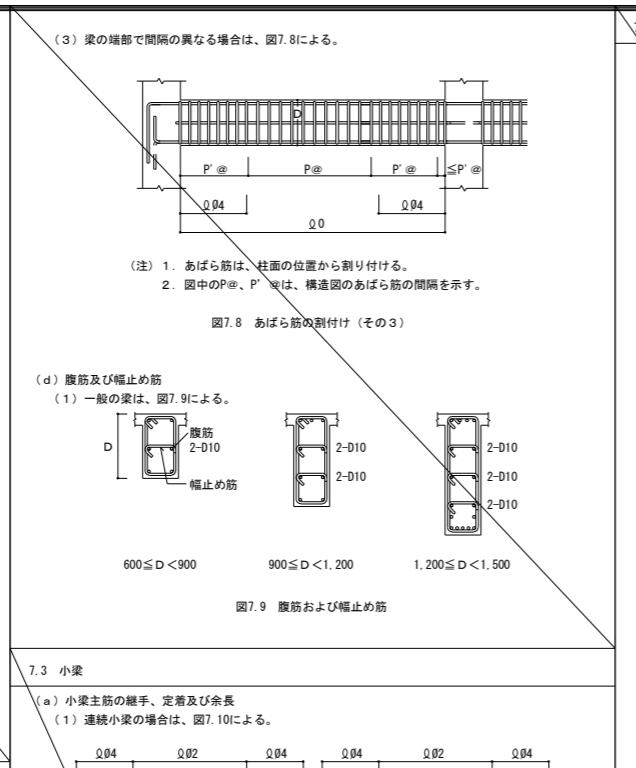
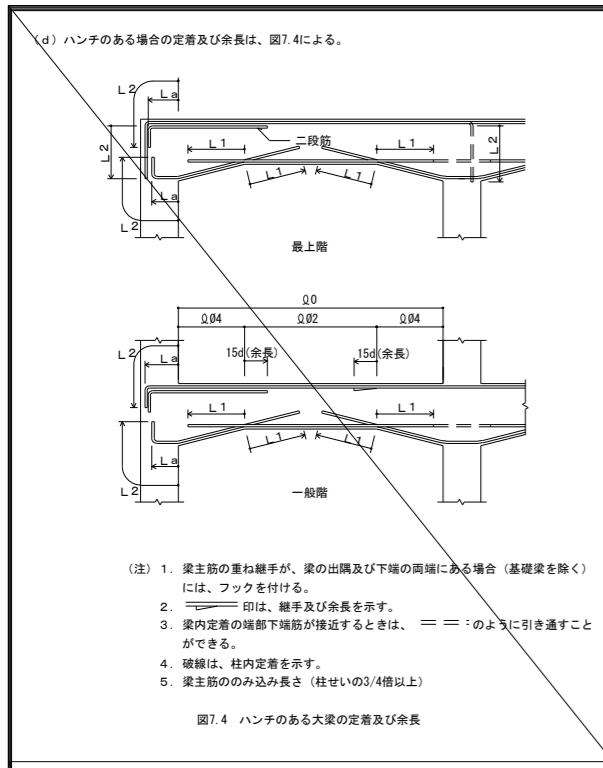
(2) 継手、定着及び余長は、図6.1による。

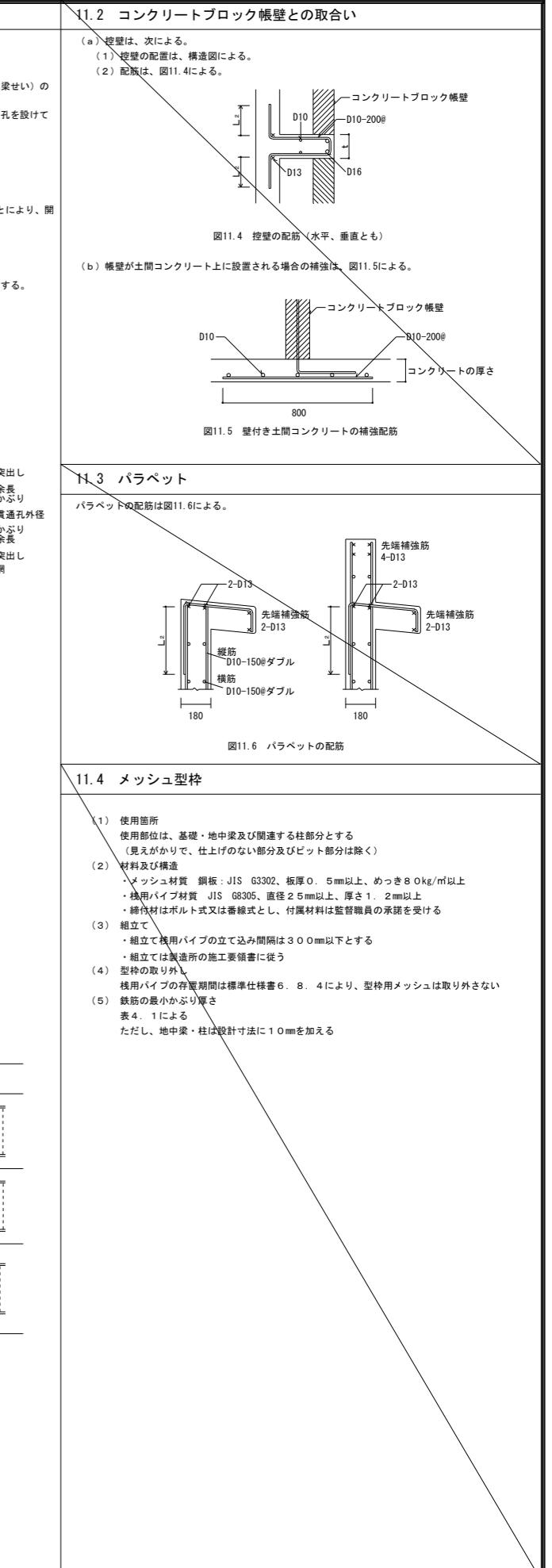
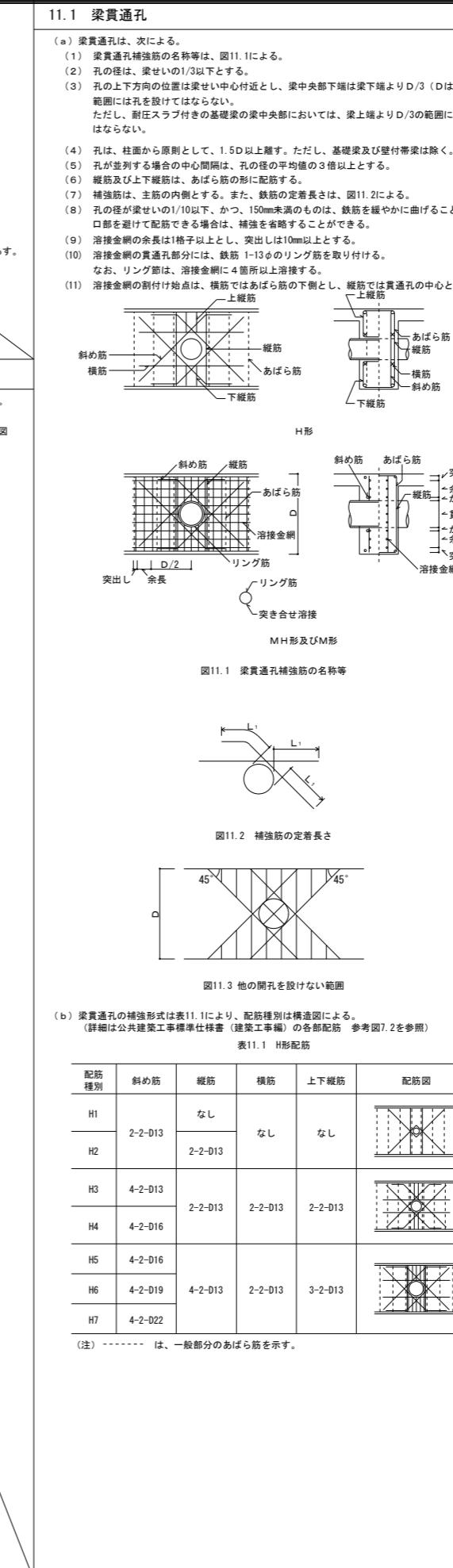
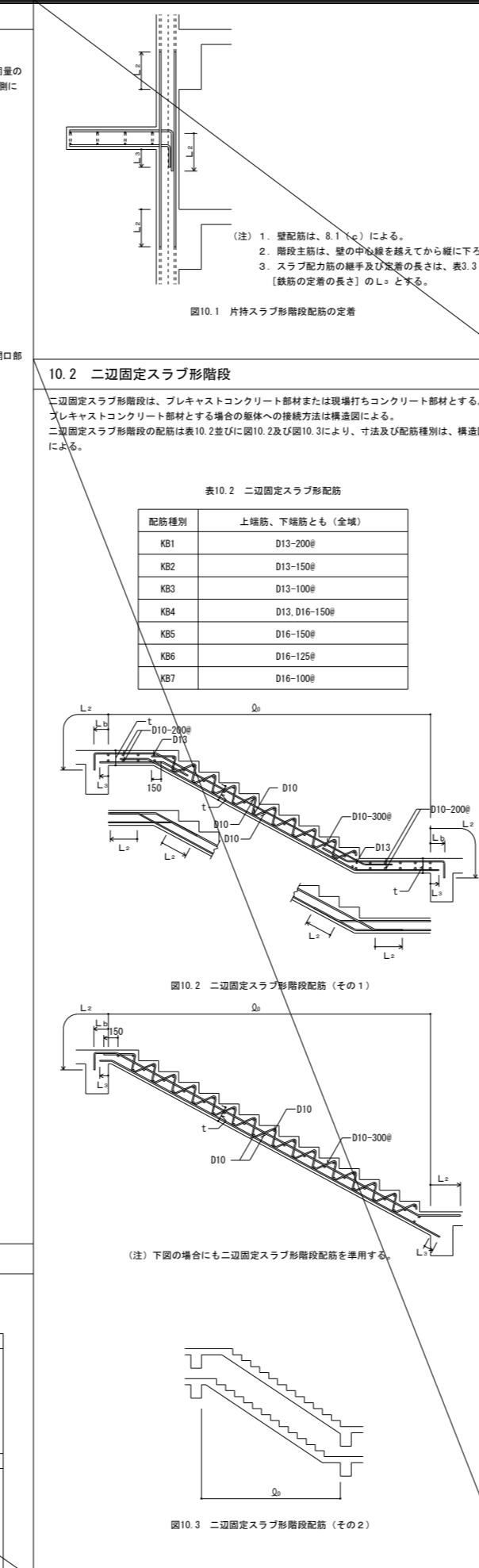
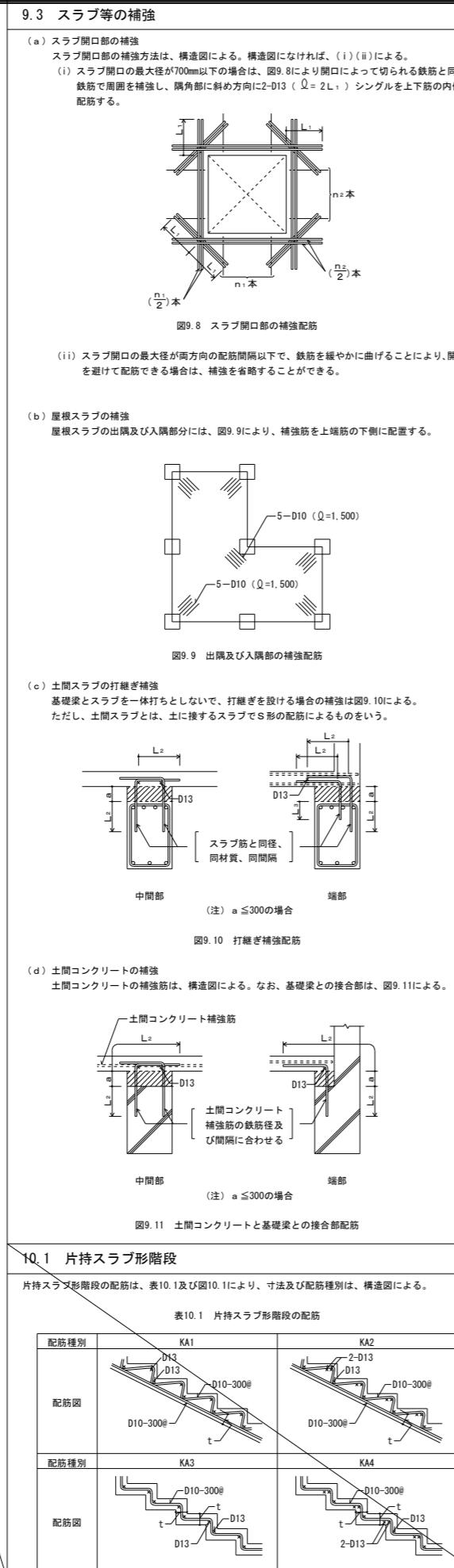
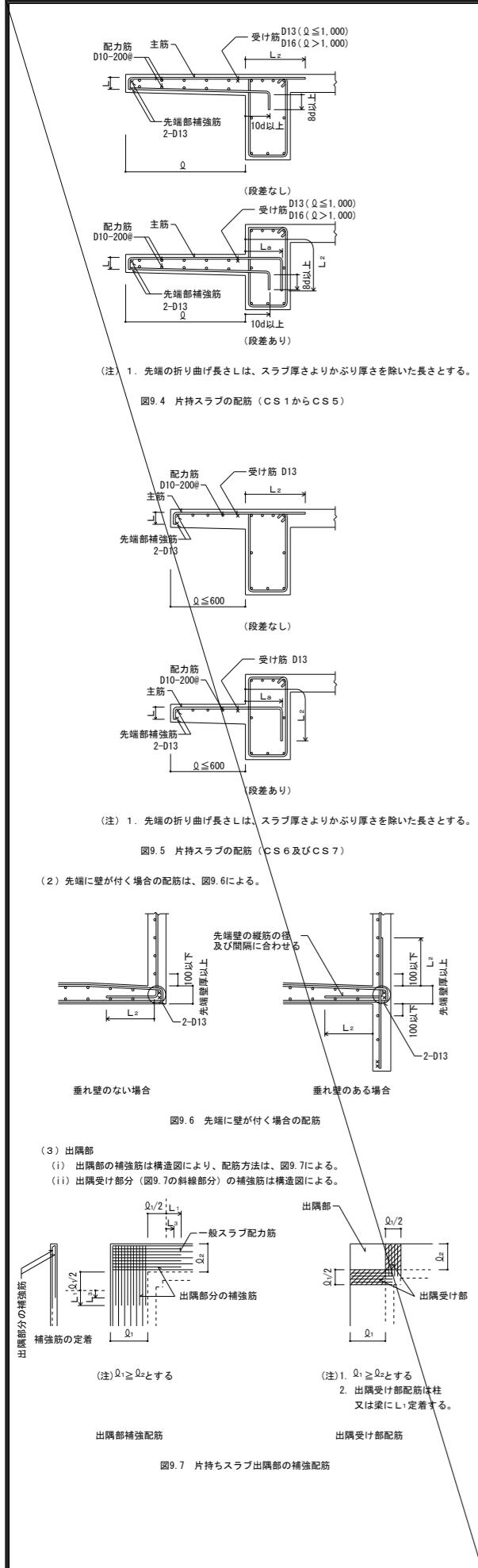
ただし、柱頭定着長さ L_2 が確保できない場合は、構造図による。

(b) 柱

(a) 一般事項

(1) 継手中心位置は





構造関係共通事項(鉄骨標準図)

1-1 緑端距離及びボルト間隔

(a) 緑端距離及びボルト間隔
緑端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の緑端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの緑端距離は構造図による。

表1.1 緑端距離及びボルト間隔 (単位:mm)		
ねじの呼び	緑端距離	ボルト間隔
M12	40	60
M16	45	70
M20	50	80
M22	55	90
M24	60	100

(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位:mm)		
ゲージ	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
g	ねじの呼び	M12, M16, M20, M22
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40

(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位:mm)							
A又はB				B			
							最大軸径
45	25	12	100	56	16	50	30
50	28	16	125	75	16	65	35
60	35	16	150	90	22	70	40
65	35	20	175	105	22	75	40
70	40	20	200	120	24	80	45
75	40	22	250	150	24	90	50
80	45	22	300	150	40	100	55
90	50	24	350	140	70	24	24
100	55	24	400	140	90	24	
125	50	35	24				
130	50	40	24				
150	55	24					
175	60	70	24				
200	60	90	24				

(d) ボルト記号

表1.4 高力ボルト径の記号				
区分	径	M12	M16	M20
高力ボルト (F10T-S10T)	○	Φ	◆	◆
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)	△	+	*	*

表1.5 普通ボルト径の記号				
区分	径	M12	M16	M20
普通ボルト	○	Φ	◆	◆
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)	△	+	*	*

表1.6 溶接継手及び溶接面の分類別記号		
溶接継手	分類	記号
完全溶込み溶接	実合わせ継手	B
隅肉溶接	T型継手	T
部分溶込み溶接	かど継手	L
フレア溶接		F
片面溶接		P
両面溶接		L

表1.7 溶接の補助記号		
区分	補助記号	
現場溶接	■	
全周溶接	○	
全周現場溶接	○	
断続溶接の長さ及び間隔	L-P	

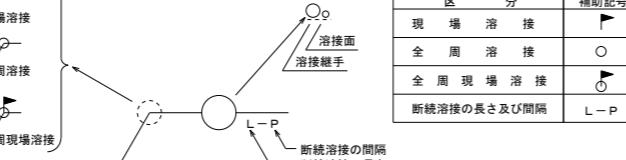
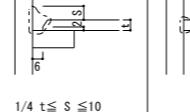
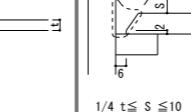
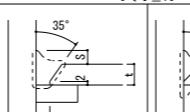
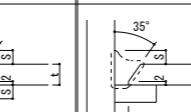
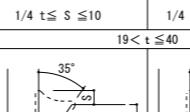
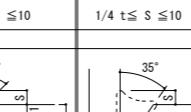
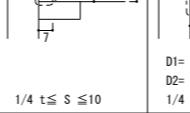
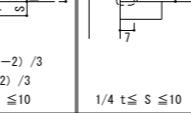
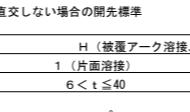
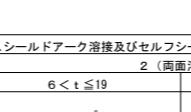
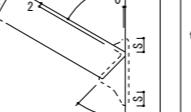
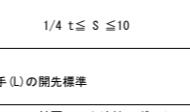
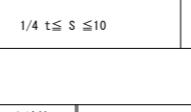
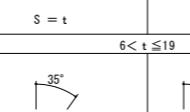
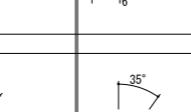
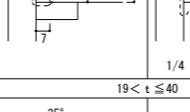
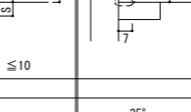
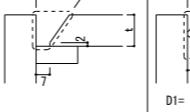
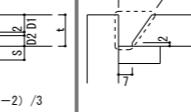
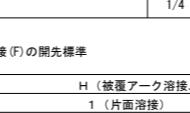
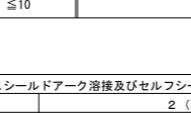
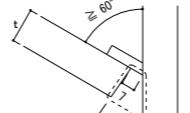
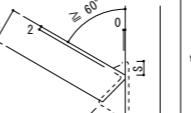
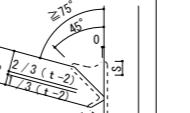
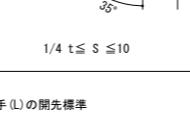
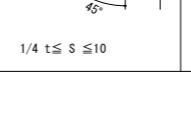
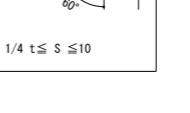


図1.1 溶接記号の記載例

T型継手(T)の開先標準

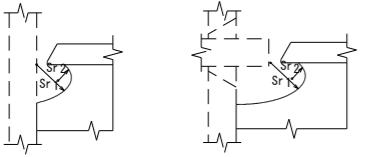
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
			
$1/4 t \leq s \leq 10$		$1/4 t \leq s \leq 10$	
			
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
			
$1/4 t \leq s \leq 10$		$1/4 t \leq s \leq 10$	
			
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	
			
$1/4 t \leq s \leq 10$		$1/4 t \leq s \leq 10$	
			

部材が直交しない場合の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$	$19 < t \leq 40$
		
$1/4 t \leq s \leq 10$		$1/4 t \leq s \leq 10$
		

かど継手(L)の開先標準

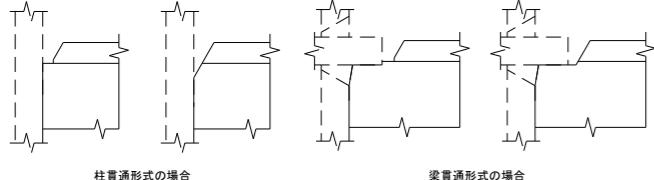
(d) スカラップ
改良型スカラップ
(1) スカラップ半径Sr1は35mmとする。Sr2は10mmとする。
(2) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スカラップ
(1) スカラップ半径Srは35mmとする。



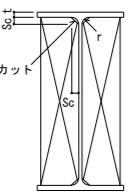
(e) スカラップを設けない場合



柱貫通形式の場合

梁貫通形式の場合

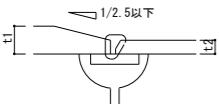
(f) スニップカット
(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



(2) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2lにより求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

(g) 溶接部分の段差
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合



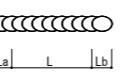
(h) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	バス間温度 (°C)
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く YGM11, 15	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-YCA-U T490Tx-YMA-U T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	30以下	450以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く G490AU-CCJ	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G490AU-NCC, NCCT 等		
	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く YGM11, 15	40以下	350以下
490N級鋼	JIS Z 3312	YGM18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-YCA-U T490Tx-YMA-U T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	30以下	250以下
	JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く G490AU-CCJ	40以下	350以下
	JIS Z 3315	G490AU-NCC, NCCT 等		
	JIS Z 3312	YGM18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下
520N級鋼	JIS Z 3312	YGM11, 15	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-YCA-U T490Tx-YMA-U T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM11, 15	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-YCA-U T490Tx-YMA-U T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下
400N級STKR, BCR及びBCP	JIS Z 3312	YGM18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T490Tx-YCA-U T490Tx-YMA-U T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGM18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-YCA-U T550Tx-YMA-U	40以下	350以下

1-5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

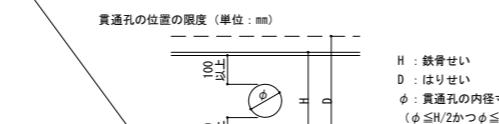
鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合の溶接長さ (L) は、ビードの始点 (L_a) 及びクレーター (L_b) を除いた部分の長さとする。

L : 片面フレア溶接の場合 10d
両面フレア溶接の場合 5d
L_a及びL_bは 1 d (軽量形鋼については 1 S) 以上
d : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
S : 溶接のサイズ



1-6 梁貫通孔補強

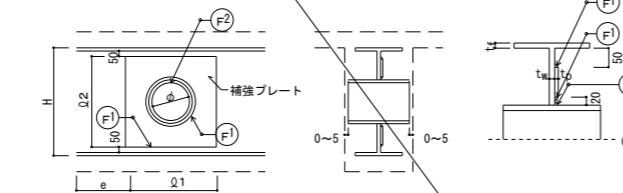
(a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部材に貫通孔を設ける場合は、次による。
(1) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリートせいの1/3以下とする。
(2) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨せい2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリートせい3倍以上確保する。



(b) 貫通孔の補強方法は、構造図による。
(1) 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

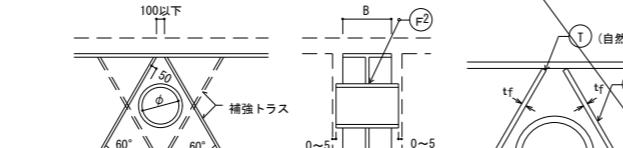
補強プレート法

(1) 補強プレート厚が16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
(2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

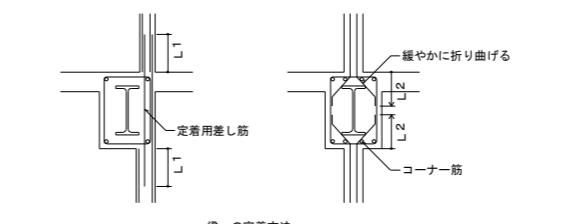


補強トラス法

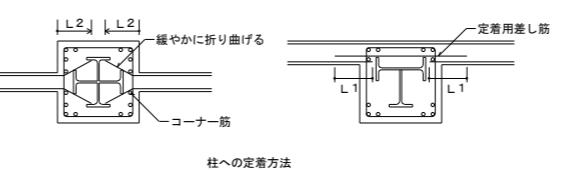
(1) スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



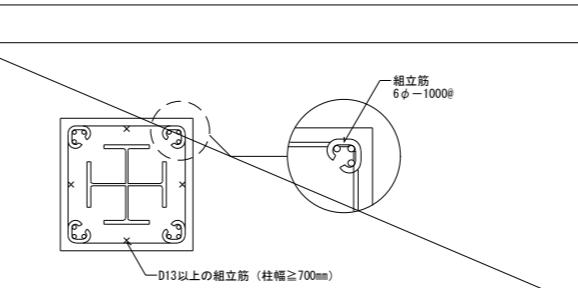
1-7 壁筋の周辺部材への定着



梁への定着方法

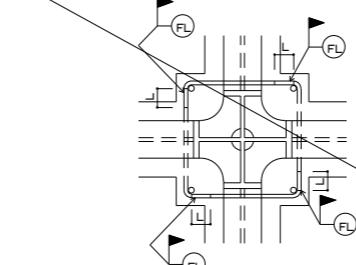


柱への定着方法



1-8 柱組立筋

片面溶接の溶接長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。



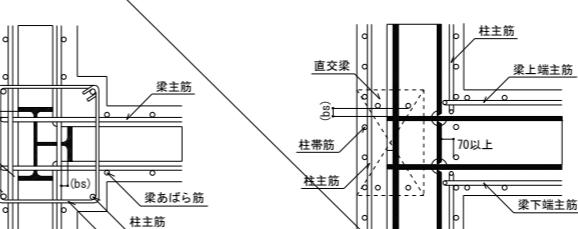
1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

鉄筋の溶接長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。

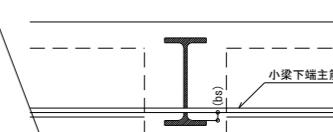
鉄筋の溶接孔径の最大値は、下表による。

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋溶接孔径	21	24	28	31	35	38	43	46

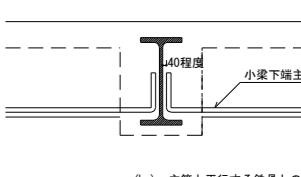
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)



(bs) : 主筋と平行する鉄骨とのあき

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所

登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆司



東城ストックヤード施設 新築工事

特記仕様書-6

縮尺

R7・3

設計

S-6

一般事項

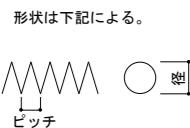
- 適用範囲
 - 耐震改修共通事項は、耐震改修工事における構造関係の共通的事項とする。
 - 耐震改修共通事項以外については、設計図及び監督職員の指示による。
- 設計図面の図面間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
 - 改修特記仕様書
 - 図面 2-1 耐震改修標準図、構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）を除く図面
 - 2-2 耐震改修標準図、構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）
 - 国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年度版）」
 - 用語の定義
 - 異形鉄筋の径（本文、図、表において「D、d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
 - 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。
 - 設計図面で使用する記号は、表1.1、表1.2を標準とする。

記号	・	×	○	●	○	○	⊗	◎
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32

表1.1 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
○	スラブの配筋種別	+	杭の位置
△	スラブ厚さ	+	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
○	土間コンクリート	▨	スラブ開口
▨	コンクリートブロック壁（C.B壁）	○	ボーリング位置
▨	梁・スラブの上がり下がりの範囲	(±)	FLからの上がり下がり

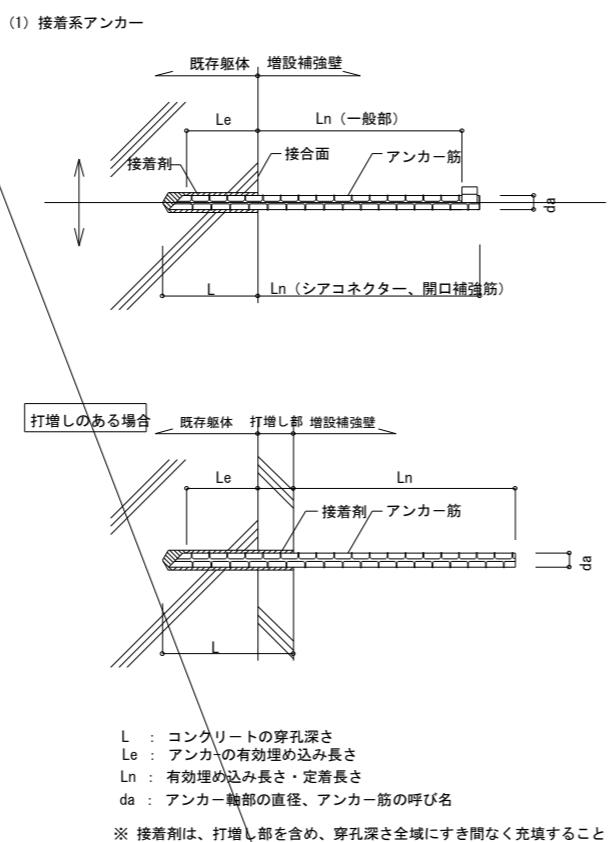
5. 使用材料
(a)スパイラル筋 JIS G 3112 SR235



壁厚	割裂防止筋
150	6φ@35 直径: 7.0

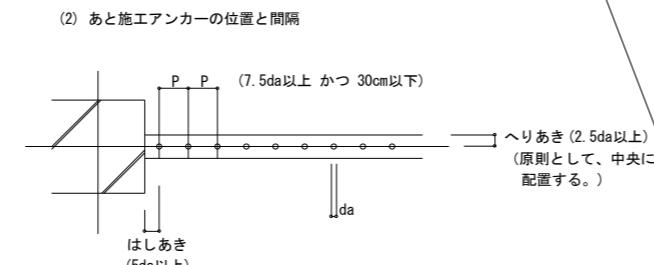
6. 注意事項
(a)改修工事に先立ち、補強構面毎に現場実測を行い、スパイラル筋、壁配筋等が確実に施工できるか確認を行うこと。
(b)増設部分と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒らしとし、コンクリート打設前に十分な水湿しを行う。
(c)直交雑壁が存在する部分は、壁筋のみを残して、増打ち壁厚分をはつり込みのこと。
(d)施工段階で納まり上、設計図通りの配筋が困難な場合は施工図等を用い、監督職員と協議すること。
(e)壁、スラブ、階段等の配筋種別は、標準別図各部配筋（4.1）～（6.2）による。
(f)目地にシーリングがある場合の最小かぶり厚さは改修標準（表8.3.6）の「仕上げなし」の項による。
(g)NW#は新設耐震壁を示し、かぶり厚さ、定着長さ、継手長さは改修標準による。
(##は壁配筋の種別の数値又は符号示す。)
(h)既存壁に開口を設けてはならない。やむを得ず設ける場合は監督職員の承諾を受ける。
(i)割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
(j)割裂補強筋の継手は、2巻以上の重ねとする。
(k)あと施工アンカーの規定穿孔深さは、はつり出しや目荒らしの底面を基準とする。
(l)穿孔に使用する機械は、[○ハンマードリル・コアドリル]とし、金属検知により電源供給が停止出来る付属装置（メタルセンサー）を使用する。穿孔の際に鉄筋に当たった場合は、直ちに監督職員に報告し、指示を受ける。

あと施工アンカー

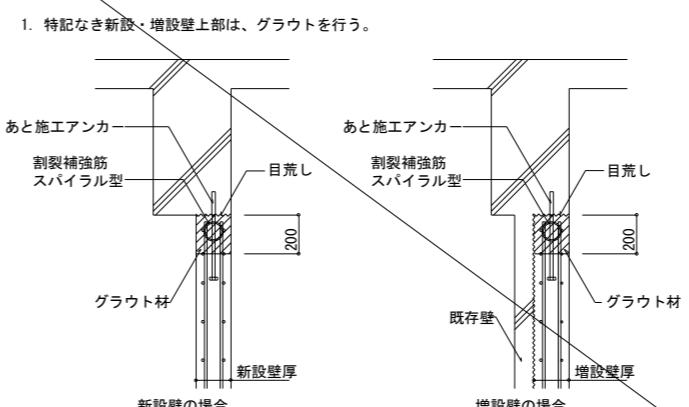


アンカーフレアピッチ標準

アンカーフレアピッチ標準
接着系アンカ-の有効埋め込み長さ
一般部 : $Le = 7da$ シアコネクター : $Le = 7da$ 開口補強筋 : $Le = 12da$
接着系アンカ-の有効定着長さ
一般部 : $Ln = 20da$ シアコネクター : $Ln = 増打壁厚 - かぶり厚$ 開口補強筋 : $Ln = L + 50$ (=補強筋との継手長さ + 余長)
アンカーフレア形状
一般部 : ナット付き異形棒鋼とし、ナットからねじ山が2山以上であること。 シアコネクター : ナットなし ただし、フォームタイを兼用する場合は、端部にナットを付ける。 開口補強筋 : ナットなし ※既存躯体側の先端形状は45°カットとする。
施工確認試験荷重
アンカーフレア呼び名 (da) 荷重 (kN)



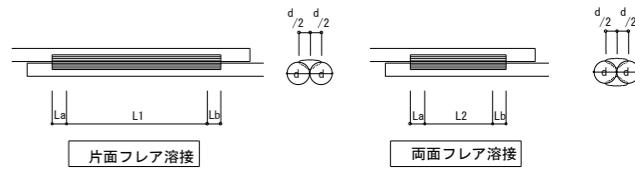
新設・増設壁上部グラウト要領



アンカーフレア溶接要領

鉄筋フレア溶接要領

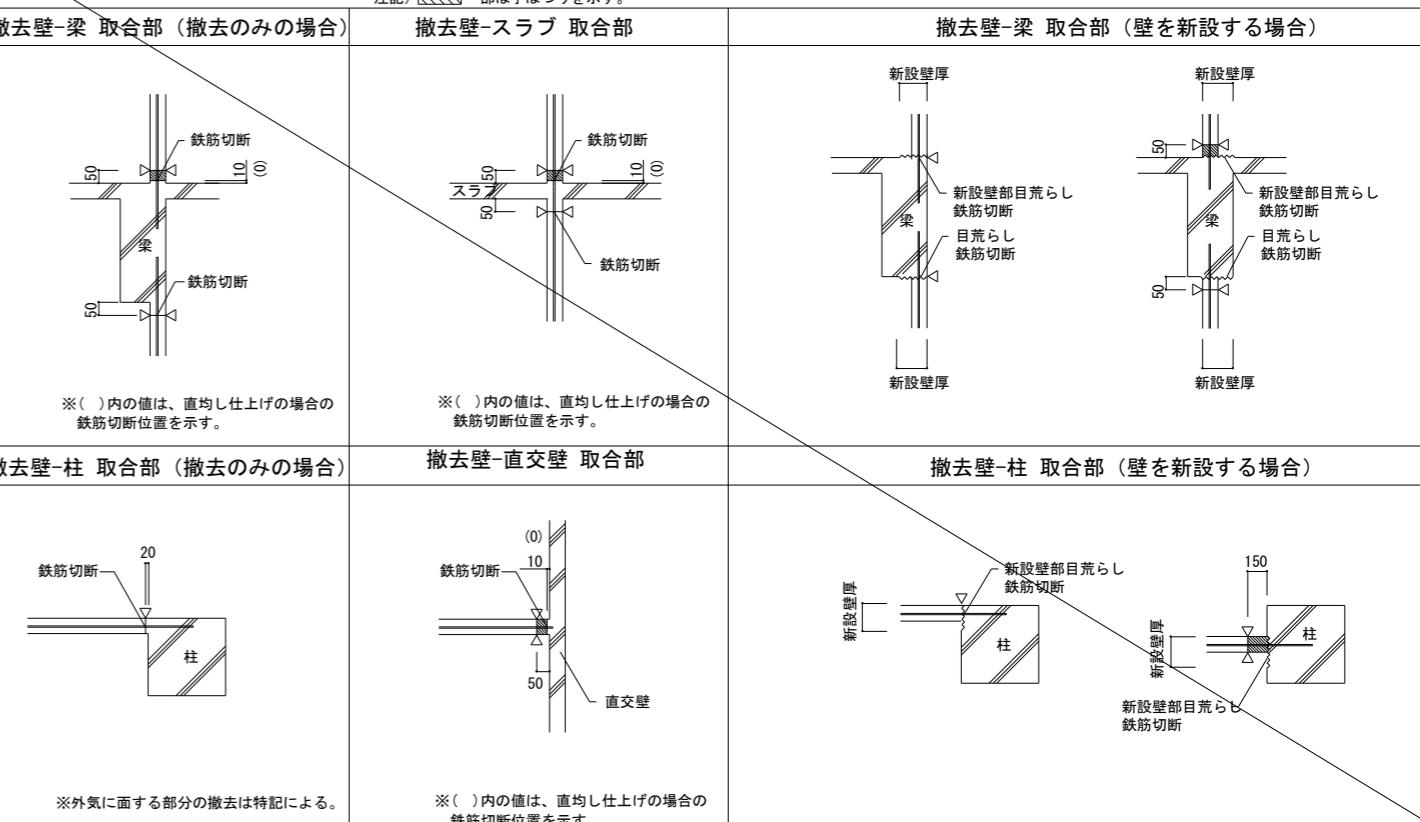
- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレータ(Lb)を除いた部分の長さとし、寸法は下表による。但し、La及びLbは1d以上とする。



鉄筋径	L1	L2	d
9φ・D10			
13φ・D13			
D16			

既存壁等撤去要領図

S=1/30
注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。
注記) ▲印は、コンクリートカッタ位置を示し、カッタ深さ30とする。
注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。
注記) ▨部は手はづりを示す。



富永建築設計事務所

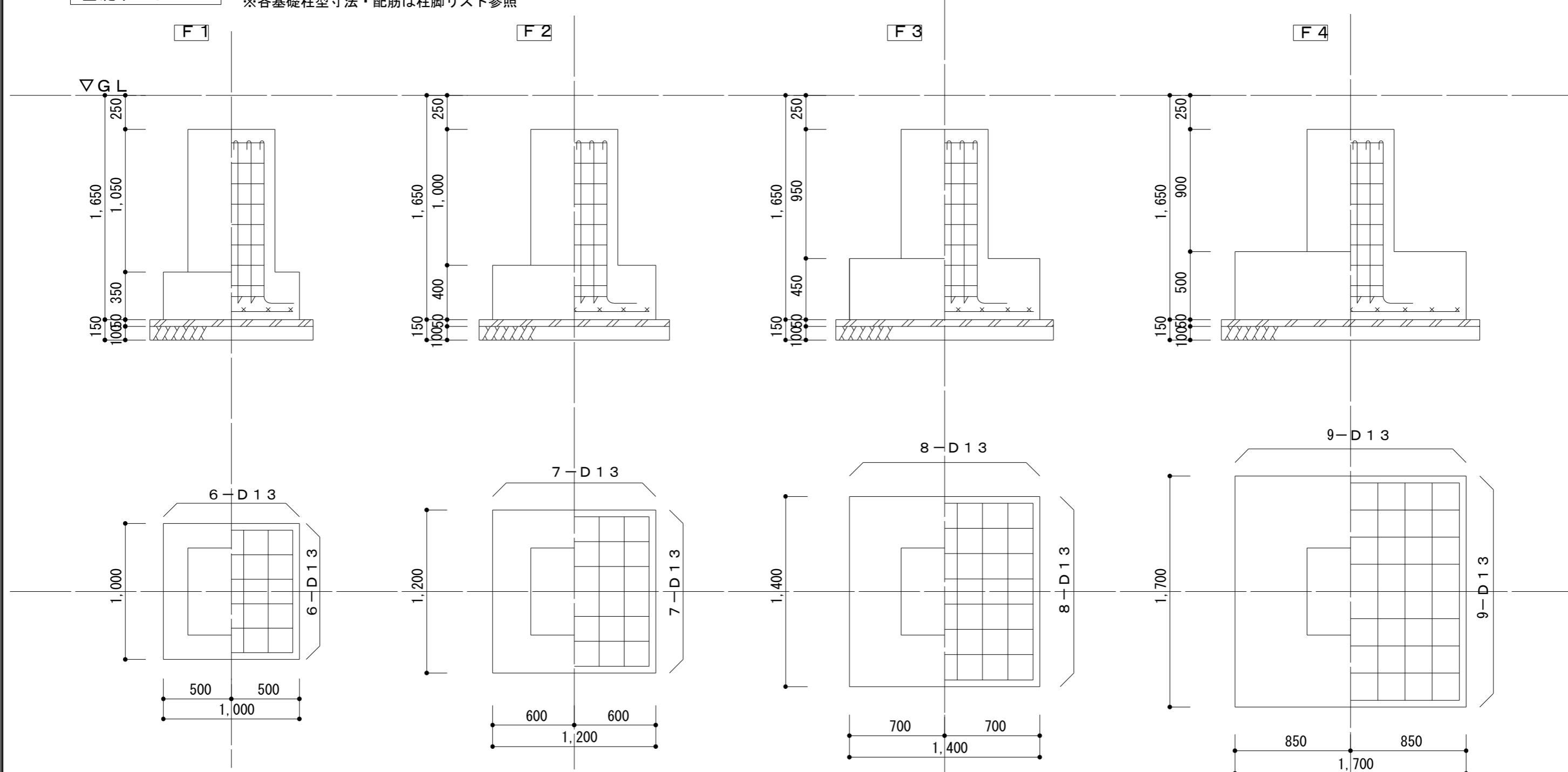
1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆司

東城ストックヤード施設 新築工事

縮尺 設計 図面番号

R7・3 S-7

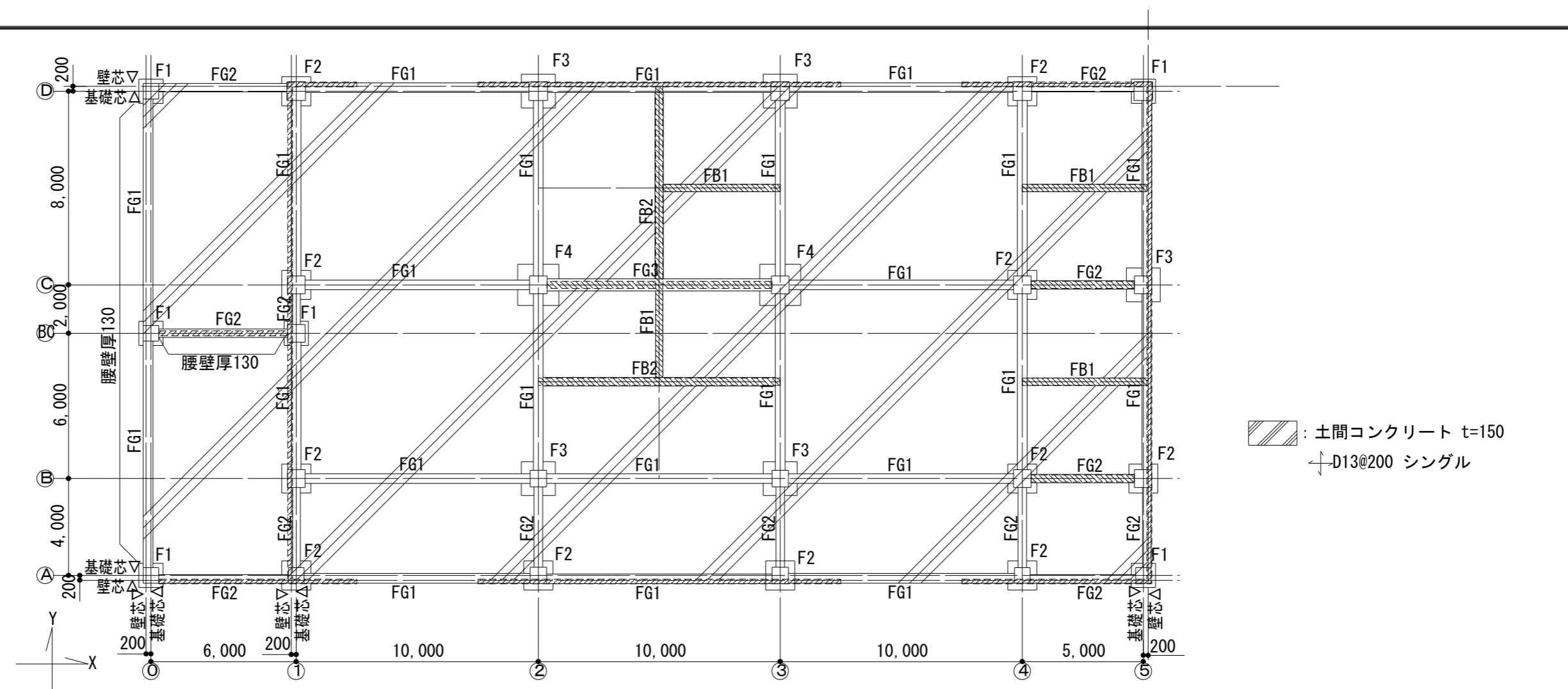
基礎リスト S=1:30 ※各基礎柱型寸法・配筋は柱脚リスト参照



捨コンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$ S=15
基礎コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$ S=15
土間コンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$ S=15
$\leq D16$	SD295A
$\geq D19$	SD345

符号	スラブ厚	鉄筋 短辺方向	鉄筋 長辺方向	鉄筋 開口補強筋	碎石厚
土間コンD S 1	150	D 13-@200 シングル	D 13-@200 シングル	2-D 16	100

※鉄筋の継手及び定着長さは40d以上とする。
※柱角には斜め補強筋2-D13を菱形で配筋すること。
※土間コンクリートとFG取り合い部分いは定着筋D13@200を設置すること。



基礎伏図 S:1/200

地中梁リスト S:1/30

符号 B × D	FG1 400 × 1000	FG2 350 × 1000	FG3 400 × 1100	FB1 300 × 600	FB2 350 × 1000
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	端部 中央
断面					
主筋	4/1-D25	3-D25	4/2-D25	2-D25	3-D25 3-D25
主筋	4/1-D25	3-D25	4/2-D25	2-D25	3-D25 6-D25
STRAP	2-D13@250	2-D10@200	2-D13@200	2-D10@200	2-D13@150
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	4-D10

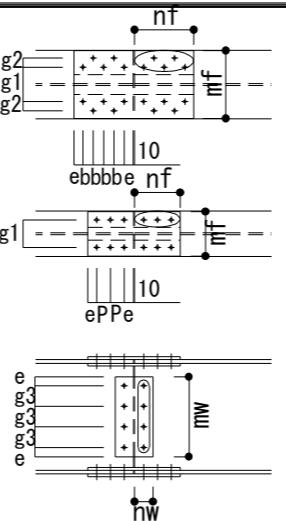
腰壁詳細図 S:1/30

凡例			
断面			
壁厚	180	130	250
立上り 高さ	0通り～1通り間: GL+1,000 その他: GL+3,000	0通り～1通り間: GL+1,000 その他: GL+3,000	GL+3,000

柱リスト

特記なき限り下記による
・使用鋼材はBCR295とする

符 号			部 材	備 考
C1	1C1		□-250x250x12	I S ベース S P 2 5 3
2C1	2C2		□-250x250x12	
1C2	1C3		□-250x250x16	I S ベース S P 2 5 4
2C3			□-250x250x16	



ボルトピッチ

ボルト径	e	P	b
M16	40	60	45
M20	40	60	45
M22	40	60	45

大梁リスト

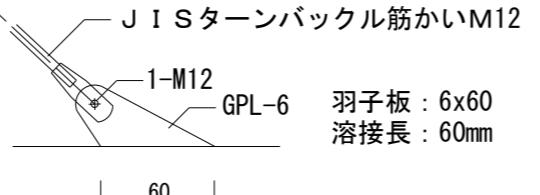
特記なき限り下記による
・使用鋼材はSS400とする

符 号			部 材	FLANGE						WEB				備 考
				HTB	nf	mf	g1	g2	SPL	mw	nw	g3	SPL	
RG1	RG2	RG3	H-340x250x9x14	M20	4	2	150	-	SPL- 12x250x530	3	2	60	2SPL- 9x200x290	
									2SPL- 12x100x530					
RG4	RG5	RG6	H-350x175x7x11	M16	3	2	105	-	SPL- 9x175x410	4	1	60	2SPL- 9x260x170	
									2SPL- 9x70x410					
2G1	2G2		H-340x250x9x14	M20	4	2	150	-	SPL- 12x250x530	3	2	60	2SPL- 9x200x290	
									2SPL- 12x100x530					

使用構造材料

適用箇所	種 類	設計溶接強度
柱	BCR295	1.0F
ダイヤラム	SN490C	1.0F
梁, その他	SS400	1.0F

屋根ブレース



軸組図で描かれていない部分の鉄骨も、その他の図面の仕様と同等に考える。

図面で描かれていない部分の鉄骨でも、必要と思われる部分の鉄骨は監理者と協議の上補強すること。

※ハイテンションボルト F10T or S10T
※特記なき限り梁ジョイント位置は800とする。
※施工上必要な部分には 脊縁を入れること。
※詳細は、施工図にて指示とする。

※STボルトはトルシア型高力ボルトMBLT-9018(日本ファスナー工業 JEFトルクボルト JIS H 8641同等品)とする。
※BCR295はMSTL-0141同等品とする。

東城ストックヤード施設 新築工事

縮尺

設計

図面番号

鉄骨リスト 1

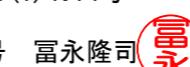
R7・3

S-10

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号
1級建築士登録
第211472号 富永隆司



小梁・雑リスト

特記なき限り下記による
・使用鋼材はSS400とする

符 号	部 材	接合部		備 考
		HTB	GPL	
P	□-200x200x6	2-M20	GPL-12	BPL-16×240×400 (SS400) A. Bolt 2-M16 L=400 W. Nut
B1	H-250x125x6x9	3-M20	GPL-12	1通端部
B1	H-250x125x6x9	3-M16	GPL-6	その他の継手
B2	B4	H-200x100x5.5x8	4-M20	ボルト: 2本×2列
B3		H-300x150x6.5x9	3-M22	GPL-12 1・A・D通端部
B3		H-300x150x6.5x9	3-M20	GPL-9 その他の継手
B5		H-350x175x7x11	3-M20	GPL-12
B6	B9	H-150x75x5x7	2-M16	GPL-6
B7	B8	H-250x125x6x9	3-M20	GPL-12
B10		H-294x200x8x12	3-M20	GPL-9
RG5		H-350x175x7x11	3-M20	GPL-12
T	[-125x65x6x8	3-M20	GPL-9	
CG	H-150x75x5x7			全周溶接
胴縁	C-100x50x20x2.3	中ボルト 2-M12	GPL-6	@600 ネコL-90×90×6
水平プレス	1-M12	1-M12	GPL-6	
折板受	C-100x50x20x2.3			スポット溶接

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所

登録番号 23(1)4914号

1級建築士登録

第211472号 富永隆司



東城ストックヤード施設 新築工事

縮尺

設計

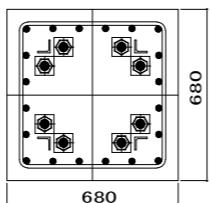
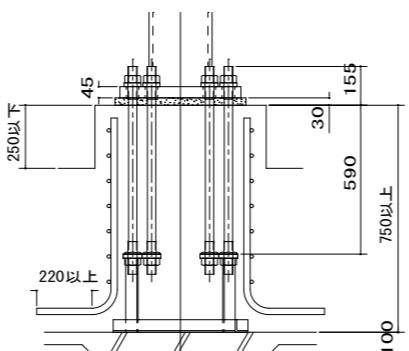
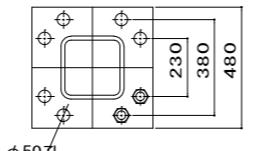
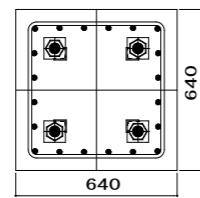
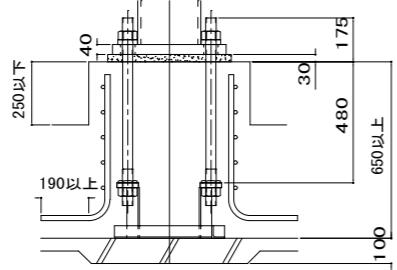
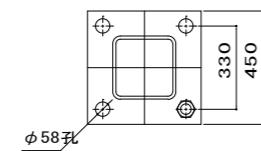
図面番号

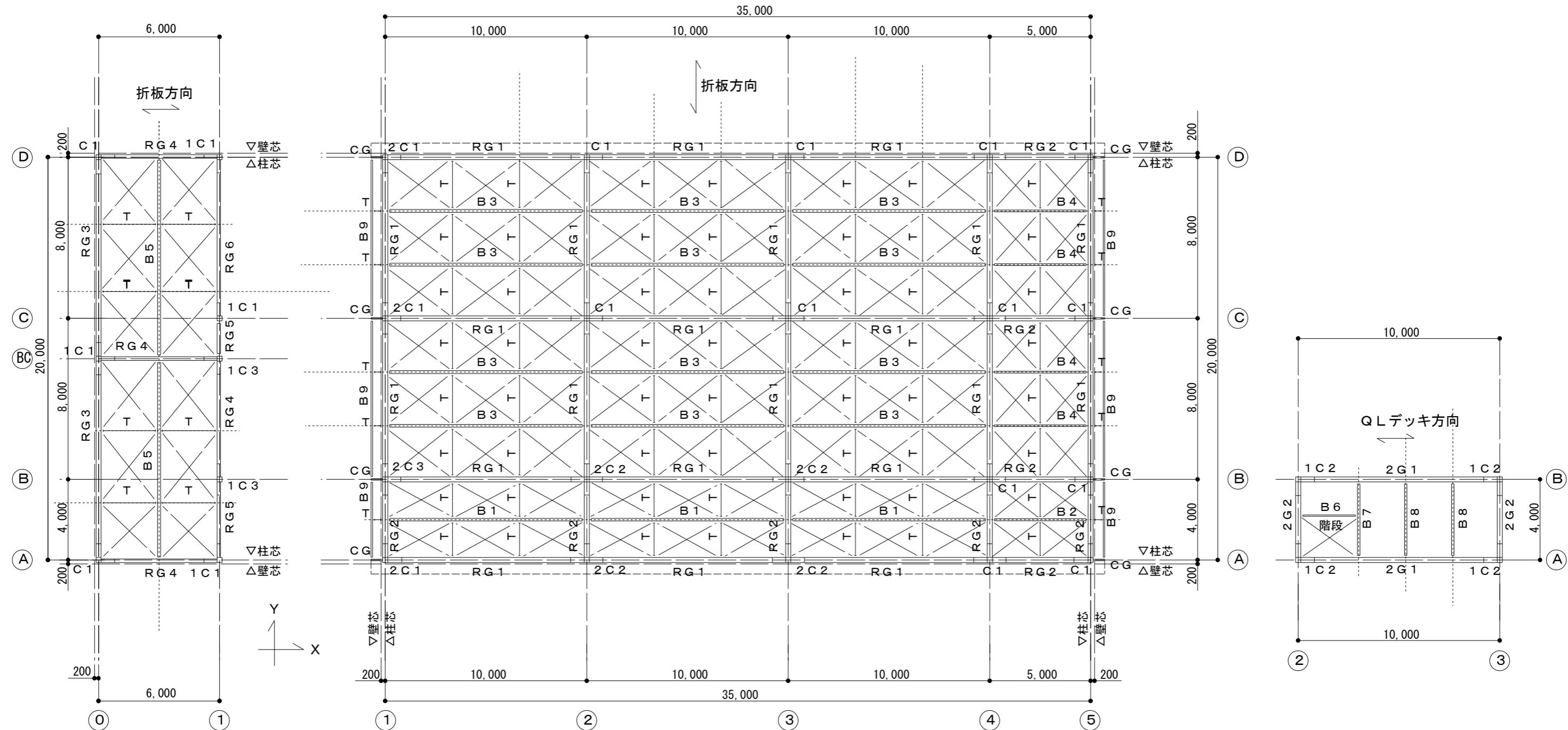
鉄骨リスト2

R7・3

S-11

柱脚記号	SP253	柱脚記号	SP254
柱寸法	□250×250×12	柱寸法	□250×250×16
アンカーボルト	4-M42	アンカーボルト	8-M36
ベースプレート	450×450×40	柱形断面	ベースプレート
柱形断面	最小：640×640		最小：680×680
	最大：840×840		最大：980×980
最小コンクリート強度	21 N/mm ²	最小コンクリート強度	21 N/mm ²
柱主筋	20-D19	柱主筋	20-D22
帯筋	D13@100	帯筋	D13@100
回転剛性	54,000kN·m/rad	回転剛性	63,000kN·m/rad



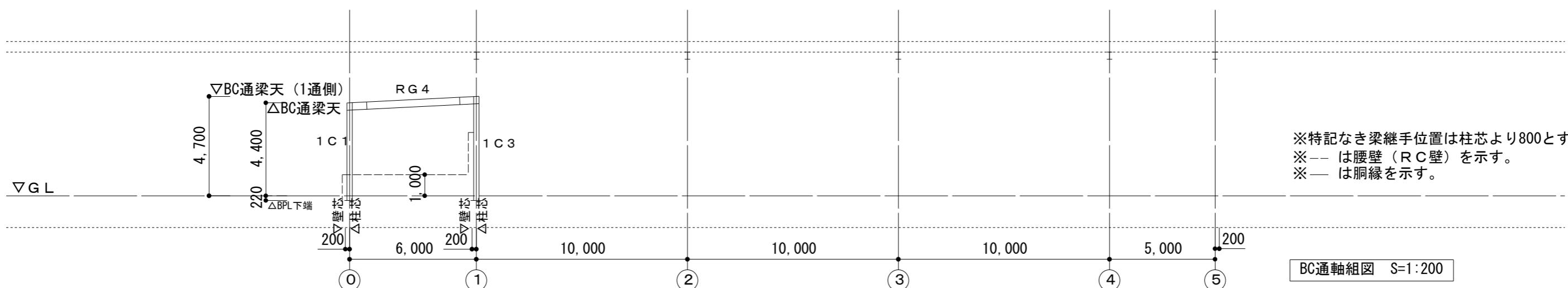
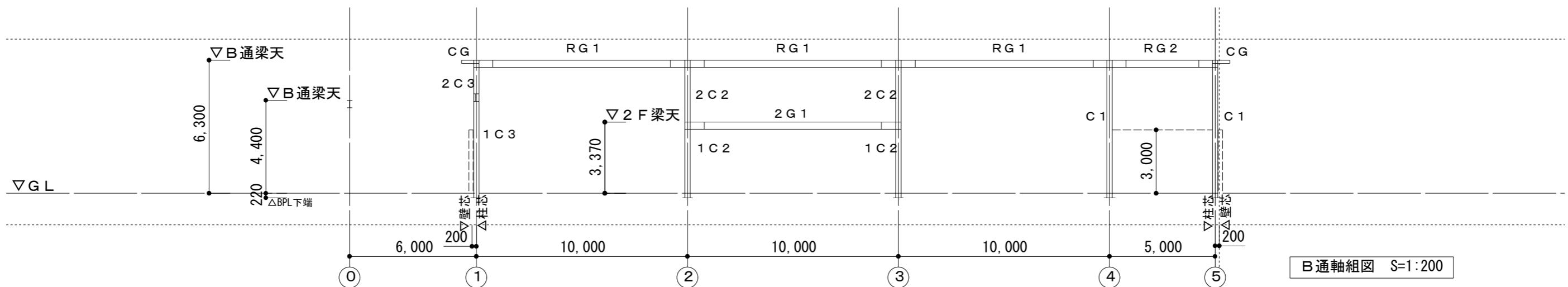
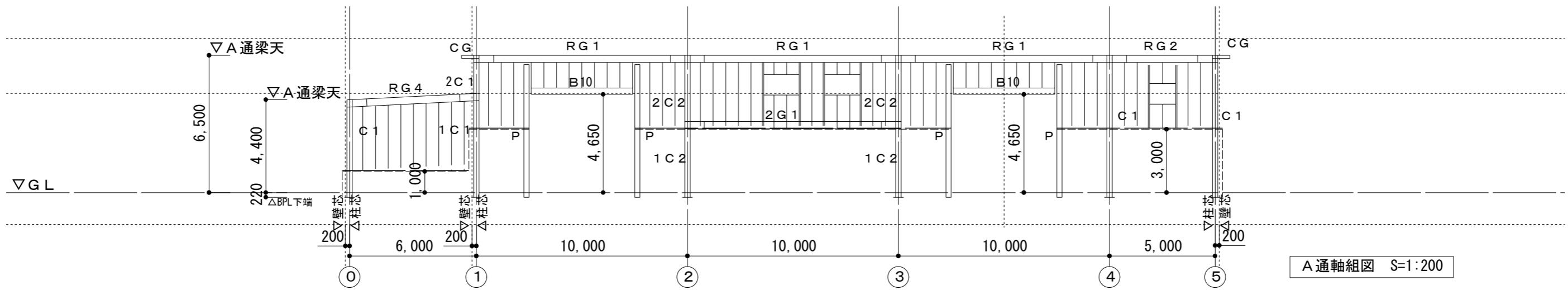


1階柱L R階梁伏図 S:1/200

2階R階梁伏図 S:1/200

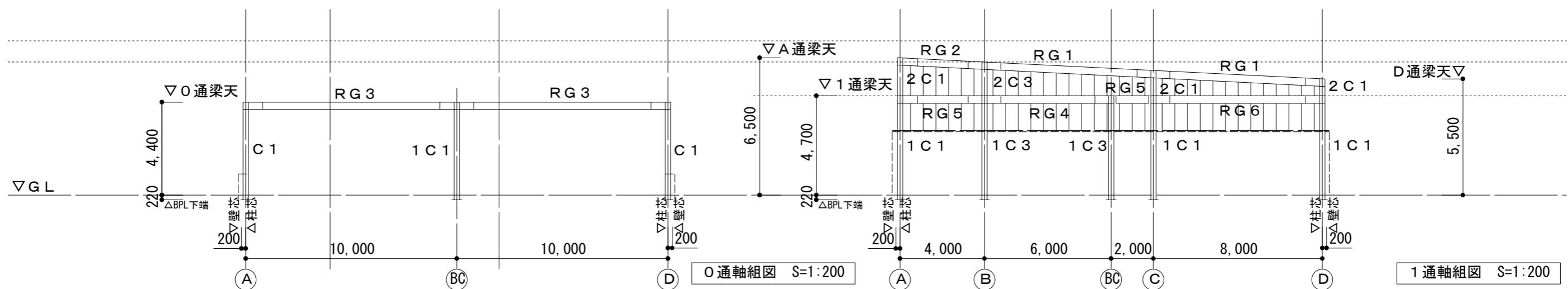
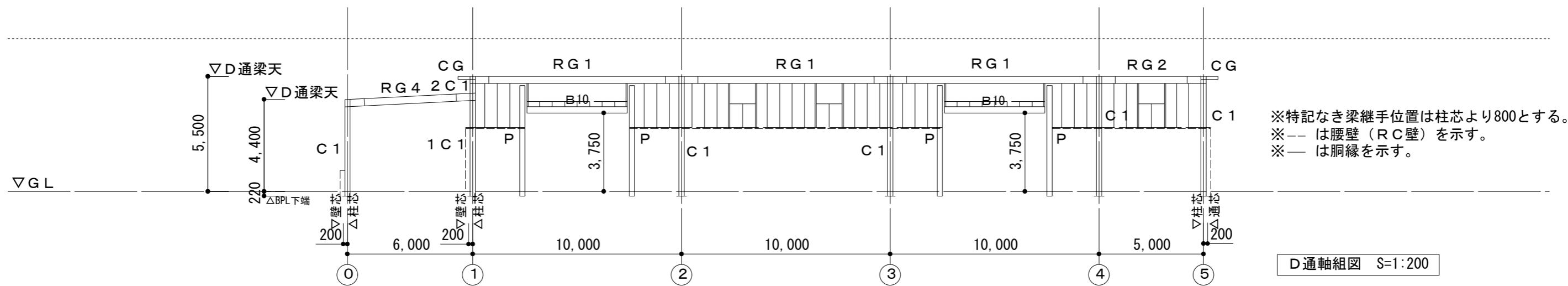
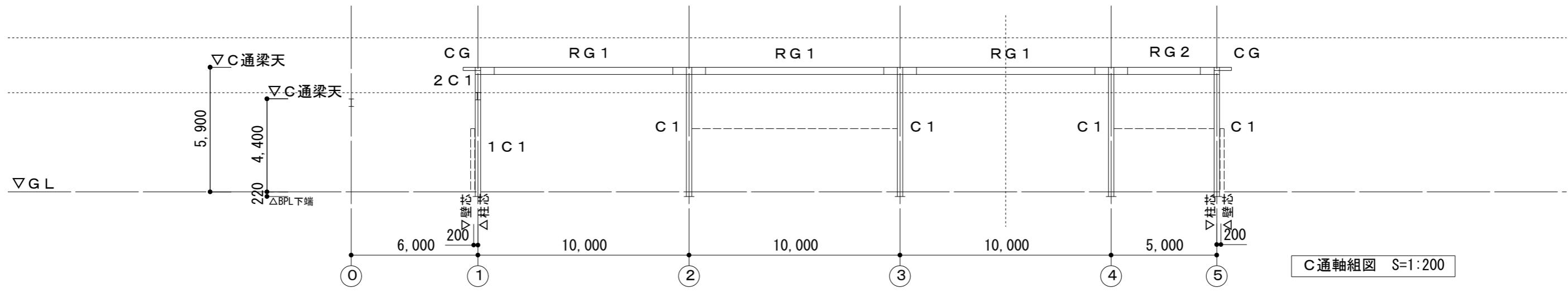
1階2階梁伏図 S:1/200

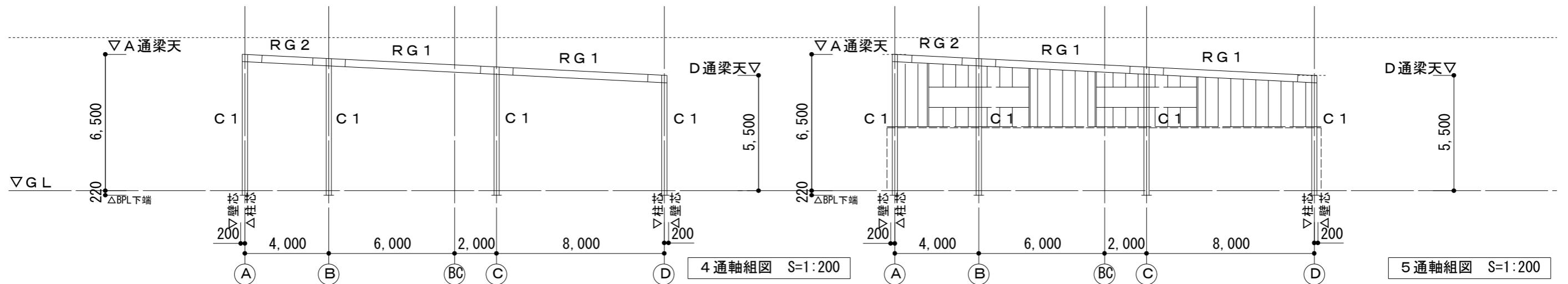
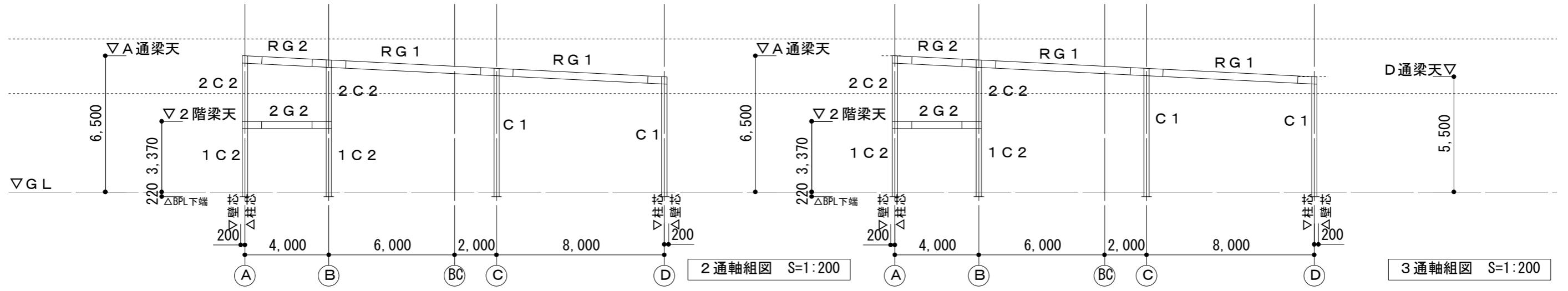
※特記なき梁継手位置は柱芯から800とする。



※特記なき梁継手位置は柱芯より800とする。
※--- は腰壁（RC壁）を示す。
※— は胴縁を示す。

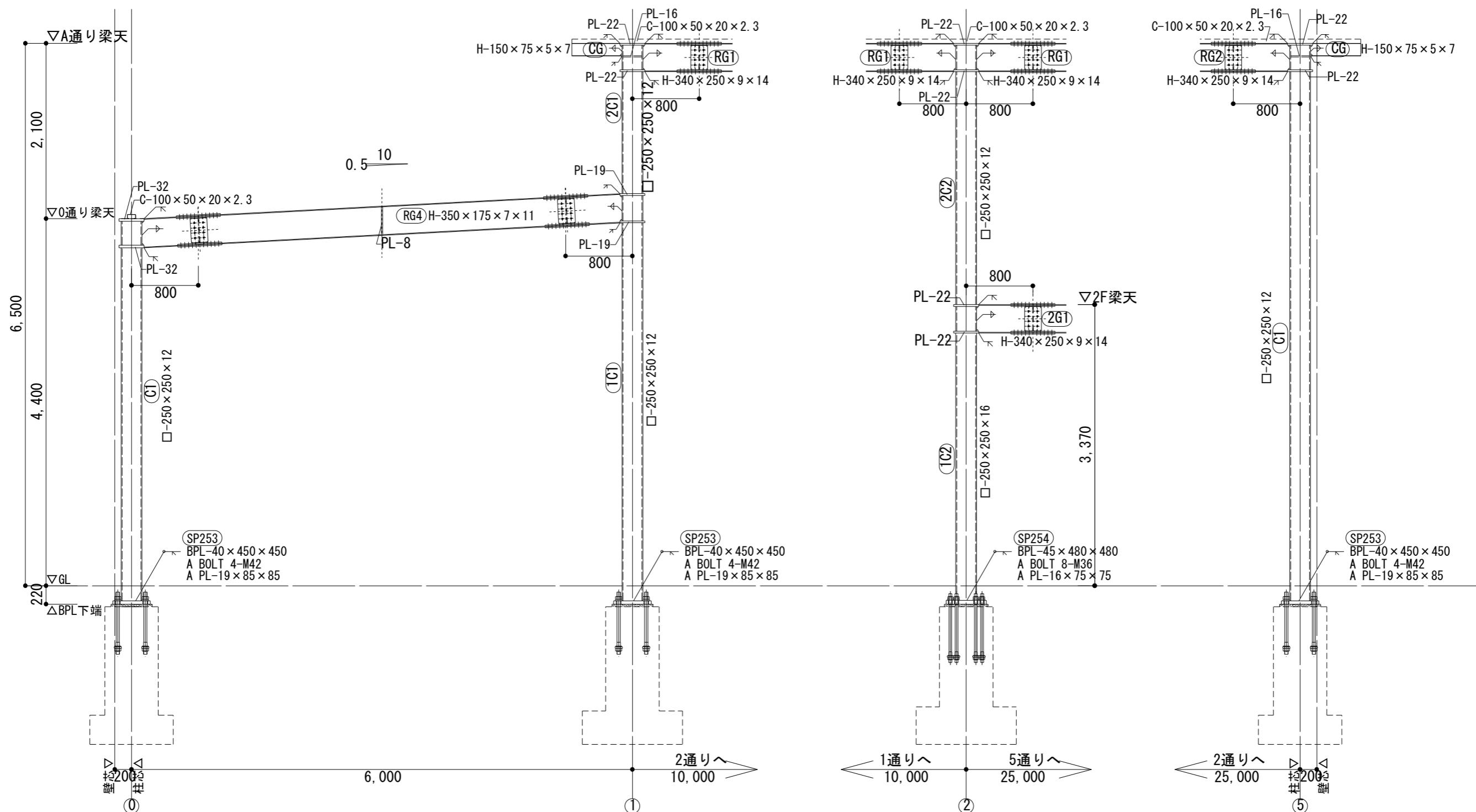
※特記なき梁継手位置は柱芯より800とする。





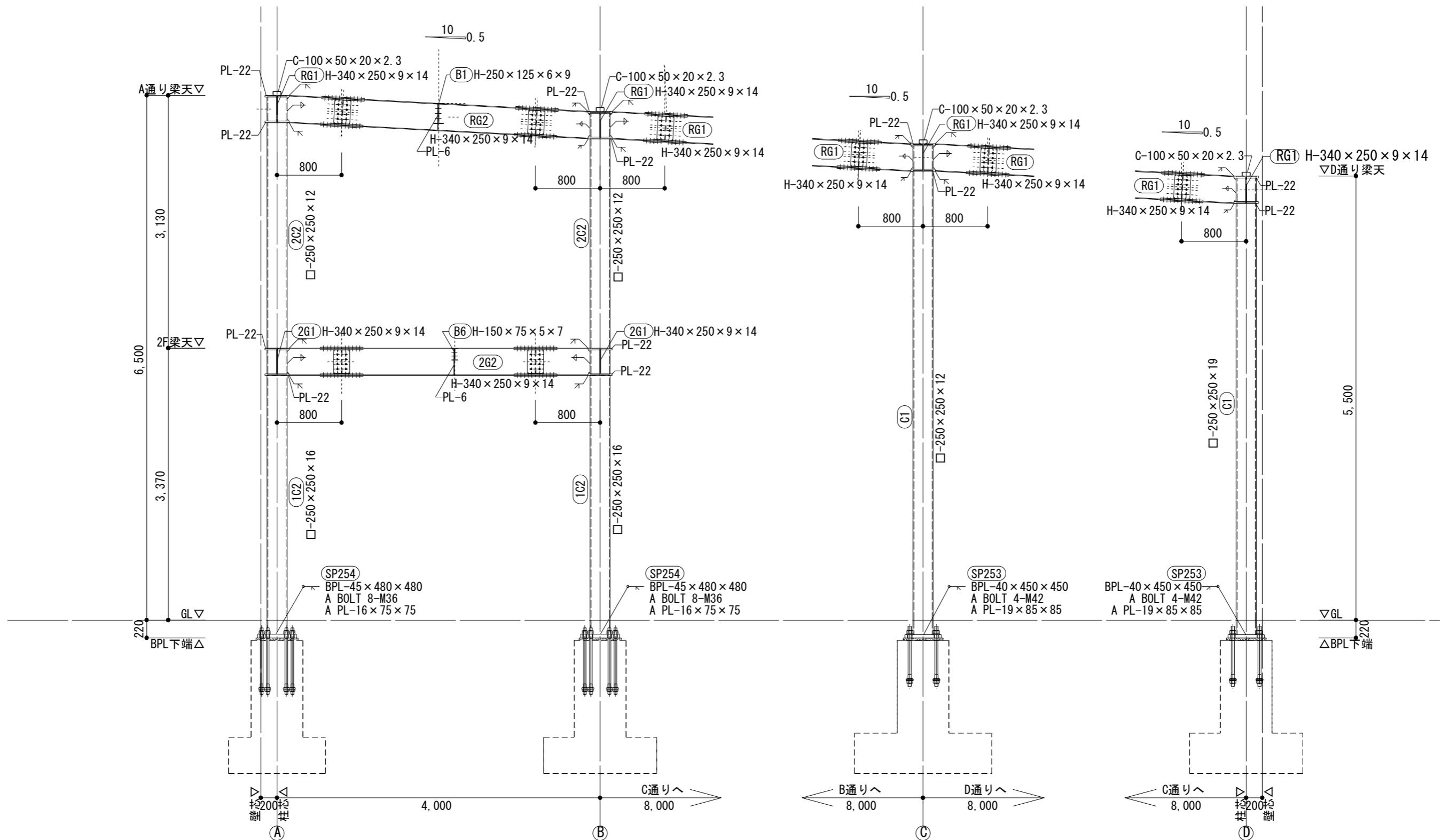
※特記なき梁継手位置は柱芯より800とする。
※---は腰壁(RC壁)を示す。
※—は胴縁を示す。

富永建築設計事務所	1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号	東城ストックヤード施設 新築工事	縮尺	設計	図面番号
広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司	軸組図3	S:1/200	R7・3	S-16



A通り構造詳細図 S=1/50

	富永建築設計事務所 1級建築士事務所 登録番号 23(1)4914号 広島県庄原市川手町276-1 TEL 0824-72-6669	1級建築士登録 第211472号 富永隆司 	東城ストックヤード施設 新築工事 鉄骨詳細図1	縮尺 S:1/50	設計 R7・3	図面番号 S-17
--	--	---	----------------------------	--------------	------------	--------------



2通り構造詳細図 S=1/50

富永建築設計事務所

広島県庄原市川手町276-1
TEL 0824-72-6669

1級建築士事務所
登録番号 23(1)4914号

1級建築士登録
第211472号 富永隆司

富永

東城ストックヤード施設 新築工事

鉄骨詳細図2

縮尺

設計

図面番号

S:1/50

R7・3

S-18